

# 食品安全情報（化学物質） No. 26/ 2019（2019. 12. 25）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

## <注目記事>

### 【ANSES】 フードサプリメントにベルベリン含有植物の使用

ベルベリンはフードサプリメントに使用される多様な植物に見られるイソキノリンアルカロイドである。そのサプリメントは血糖値やコレステロール値を調節するために摂取されているが、EUでの健康強調表示は認可されていない。フランス食品・環境・労働衛生安全庁（ANSES）はベルベリンの健康影響、特に毒性学的プロファイルを調べた。実証されている薬理効果が成人で400 mg/日の用量から生じていることを確認したが、より低用量でもそのような影響が起こる可能性を排除していない。入手可能な毒性学的データや特定のサプリメントに観察された濃度から、これらのフードサプリメントの使用の安全性は保証できていない。従って感受性の高い集団はベルベリン含有フードサプリメントの摂取を控えるよう助言する。さらに、ベルベリンによる多数の医薬品との相互作用に対して医療従事者に注意喚起もしている。

\*ポイント： フードサプリメントへのベルベリンを安全に摂取できる一日の用量を決めてフランスで規制するためにレビューしています。ベルギーでは最大一日用量として10 mgを設定しているようですが、他の制限を設けている国や、禁止している国もあると報告しています。

### 【ANSES】 ANSES はグリホサートを含む36製品の取り下げを発表

植物保護製品の有効成分グリホサートが2017年にEUで5年間再認可されたことを受けて、ANSESはフランスで販売されているグリホサートを含む製品の市販認可をレビューし、入手可能な代替品と比較評価を始めた。製造業者から提出されたデータでは遺伝毒性の可能性を排除できなかったため、ANSESは評価プロセスの終了を待たずにグリホサートを含む36製品の認可の取り下げと4つの新製品の認可拒否を発表した。

\*ポイント： フランスではすでに、世界中で広く使用されている有名なグリホサート製品（除草剤）「Roundup Pro 360」の販売が行政裁判の判決に基づき禁止されましたが、それ以外のグリホサート製品もフランス市場から排除しようとしています。ANSESの評価は来年末まで続くそうなので、さらに対象となる製品が増えるでしょう。

### 【FDA】 FDA は食料生産動物用抗菌剤の販売又は流通に関する年次概略報告書2018を発表

米国食品医薬品局（FDA）は、食料生産動物に使用が認可されている抗菌剤の米国内における販売と流通を調査した報告書を発表した。調査期間は2017～2018年。

\*ポイント： FDAが報告書と一緒に読むときの注意をわざわざ書いていたのが興味深かったです。当たり前のことなのですが、それぞれのデータが何を意味するものなのかや、付随する要素を理解せずにデータ同士を直接比較しないように、というものです。

【ご挨拶】 2019年の最終号です。来年も引き続き食品安全の海外情報をご紹介しますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。皆さま、よいお年をお迎え下さい。

## 目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

### [【WHO】](#)

1. 国際がん研究機関（IARC）

### [【FAO】](#)

1. アジア-太平洋の 300 万の栄養不良の人々は、SDGs 達成のためには 2030 年末までにどの月も飢餓からすくい上げられる必要がある
2. Codex

### [【EC】](#)

1. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

### [【EFSA】](#)

1. 外部報告書：グローバルな食品及び飼料供給チェーンの地図と分析
2. 飼料添加物関連

### [【FSS】](#)

1. クリスマスの食品安全チェックリスト
2. 新たな EU の公的コントロール規則

### [【NHS】](#)

1. Behind the Headlines

### [【BfR】](#)

1. 「指紋」が食品偽装を有罪にする役に立つ
2. 健康リスク：一枚の絵が数千の言葉に相当する

### [【RIVM】](#)

1. 全ての人のための持続可能で健康的な未来に向けて：EU プロジェクト INHERIT が政策的解決法を提供する
2. オランダ集団の日々の塩と砂糖摂取に与える食品中塩と砂糖濃度を下げることの影響推定
3. 雑草や緑の沈着物をコントロールするのに酢を使うことのリスク

### [【ANSES】](#)

1. フードサプリメントにベルベリン含有植物の使用
2. 動物の健康における抗菌剤耐性モニタリングの ANSES の仕事
3. コハク酸脱水素酵素阻害剤（SDHI）の最新情報
4. フランスにおける除草剤耐性品種の使用
5. ニース行政裁判所の決定：ANSES はスルホキサフロルを含む二つの殺虫剤の販売認可を取り下げ
6. ANSES はグリホサートを含む 36 製品の取り下げを発表

### [【FDA】](#)

1. FDA は小規模農場の査察の開始に柔軟性を持たせる
2. FDA は食料生産動物用抗菌剤の販売又は流通に関する年次概略報告書 2018 を発表
3. 食品小売業政策改訂要望準備時に考慮する 5 つのこと
4. FDA は連邦法違反の差止同意判決により、Basic Reset and Biogenyx が回収している医薬品、ダイエタリーサプリメント及び医療機器を使用しないよう消費者に強調する
5. ダイエタリーサプリメント成分助言リスト
6. FDA は大豆レグヘモグロビンを認証免除色素添加物リストに加える最終規則の発効日を発表
7. 公示
8. リコール情報
9. 警告文書

### [【FTC】](#)

1. FTC は UrthBox スナックボックスの「無料」お試しに誤解させられた消費者に返金チェックを送っている

2. FTC とメイン州はダイエタリーサプリメント販売業者を命令無視で訴える

**【CFIA】**

1. 情報共有を増やし、より安全に
2. 開始：食品事業者用ツールキット

**【FSANZ】**

1. 最終報告書—新しい交配技術を用いて作った食品のレビュー
2. 食品基準通知

**【TGA】**

1. 安全性警告

**【MPI】**

1. ニュージーランド食品安全は新戦略と行動計画を発表する
2. リコール情報

**【香港政府ニュース】**

1. 包装済み衣笠茸のサンプルに基準値超過の保存料が検出され、食品表示規則に違反
2. 缶詰レタスのサンプルが食品表示規則に違反
3. 地元の豚の組織から基準値超過の動物用残留医薬品
4. 日本産輸入冷蔵マグロのサンプルに基準値超過のメチル水銀が検出された
5. 違反情報

**【MFDS】**

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. 食品医薬品安全処、食品由来の抗生物質耐性の共同対応のための国際会議の開催
3. 食品医薬品安全処、食品の安全情報交換のための国際的なネットワークを強化
4. 食品、医薬品ウェブサイトの安全情報を1ヶ所に
5. 子供が好む食品の品質認証、安全は強化して栄養は改善
6. 子供が好む食品を調理・販売する飲食店の栄養成分表示の点検結果を発表
7. 食品調理器具の正しい使用方法など情報提供
8. 「食医薬ヤングリーダー 優れた活動で私達の安全を守るようになりました」
9. 医薬品と誤認する懸念がある虚偽・誇大広告をした6ヵ所を摘発
10. 食品医薬品安全処、食品産業の海外市場への進出を支援
11. 回収措置

**【FSSAI】**

1. 消費者は今や消費者団体を介して食品の検査ができる
2. メディアコーナー

**【その他】**

- ・ (ProMED-mail) シガテラ魚中毒—カナリア諸島
- ・ EurekAlert の記事6件

**別添**

**【ODS】**

リン：消費者用ファクトシート、医療従事者用ファクトシート

- 
- 世界保健機関（WHO : World Health Organization） <http://www.who.int/en/>

### 1. 国際がん研究機関（IARC）

IARC モノグラフ 122 巻：亜硝酸イソブチル、β-ピコリン、いくつかのアクリル酸、オンライン公表

IARC Monographs Volume 122: Isobutyl nitrite, β-picoline, and some acrylates

16 December 2019

<https://www.iarc.fr/news-events/iarc-monographs-volume-122-isobutyl-nitrite-%ce%b2-picoline-and-some-acrylates/>

6 物質について：亜硝酸イソブチル (isobutyl nitrite)、β-ピコリン (β-picoline)、アクリル酸メチル (methyl acrylate)、アクリル酸エチル (ethyl acrylate)、アクリル酸 2-エチルヘキシル (2-ethylhexyl acrylate)、トリアクリル酸トリメチロールプロパン (trimethylolpropane triacrylate)

- 
- 国連食糧農業機関（FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations）  
<http://www.fao.org/>

1. アジア-太平洋の 300 万の栄養不良の人々は、SDGs 達成のためには 2030 年末までにどの月も飢餓からすくい上げられる必要がある

Three million undernourished people in Asia-Pacific need to be lifted out of hunger every single month until the end of 2030 to achieve Sustainable Development Goal

11 December 2019

<http://www.fao.org/news/story/en/item/1254804/icode/>

食糧安全保障と栄養についてのアジア太平洋地域の概要 2019 発表。

\* 報告書 : Asia and the Pacific Regional Overview of Food Security and Nutrition

<http://www.fao.org/3/CA7062EN/CA7062EN.pdf>

(キーメッセージ)

- アジアと太平洋地域は飢餓と栄養不足をなくすため相当に前進してきたが、その進歩はゆっくりである
- 成長阻害や衰弱している人の割合は高いままで、成長阻害の有症率は当該地域の大部分の国で 20%を超えている
- 子供の栄養不良との戦いは、その他の種類の栄養不足の一般的な増加によって複雑になっている
- 食糧安全保障とより良い栄養にむけた進歩を測るには、より質の高いデータへの投資

が必要である

- 成人の肥満率がアジアと太平洋地域で増えている
- 肥満対策と食事関連 NCDs の増加への対策として、当該地域の多くの国々が砂糖で甘くした飲料への課税を導入している
- 食品や調味料の強化（例えばヨウ素、鉄、葉酸、ビタミン A、D、B など）は、当該地域のいくつかの国で実行中である
- 当該地域には、栄養改善のために社会的保護の利用に強化の余地がある
- 社会的保護もまた、ショックによって害になる対処メカニズムや栄養不足につながらないように、ショック対応においてより栄養のことを考慮するようにできる

## 欧州と中央アジアの食糧安全保障と栄養の地域概要発表

Launch of the Regional Overview of Food Security and Nutrition in Europe and Central Asia

17/12/2019

<http://www.fao.org/europe/events/detail-events/en/c/1254454/>

\* Regional Overview of Food Security and Nutrition in Europe and Central Asia 2018

<http://www.fao.org/documents/card/en/c/CA2703EN>

## 2. Codex

### ● 抗菌剤耐性に関する特別部会 (TFAMR)

コーデックスは抗菌剤耐性緊急管理への高まる要求と取り組む

Codex tackling mounting demand for urgent management of antimicrobial resistance

08/12/2019

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1254577/>

2019年12月9～13日、韓国・平昌においてコーデックス抗菌剤耐性に関する特別部会 (TFAMR) が開催される。FAO 長官の Qu Dongyu 氏は、リスクを低減するための鍵として、AMR がどこに存在し、どのように標的にすればよいのかを理解することが重要であると強調するだろう。コーデックスでは次のような大きな 2 つの課題について作業を行っている：食品に由来する抗菌剤耐性の最小化及び抑制のための実施規範 (CAC/RCP 61-2005) の見直し作業、食品に由来する抗菌剤耐性の統合的なモニタリングおよびサーベイランスに関するガイドライン原案に関する作業。

これらのコーデックス文書は、よく分かっていない食品由来の AMR の分野を特定しコントロールするという国の責任を果たす人達にとって、抗菌剤がどのように、そしてどの程度の量が使用され、耐性菌がどのようにして世界中の食料生産動物、植物、魚に広まるのか理解するのに役立つだろう。

特別部会議長である韓国の Yong Ho Park 教授は「我々は、実践的で一般的な解決策を考

える必要がある」と述べた。我々の視野を、各国の状況やシステムに囚われることなくより拡大する必要がある。

実施規範の作業部会の共同議長は次のことを述べた。実施規範は、食品由来 AMR の予防と拡大に対するリスク管理措置を提供し、コーデックスメンバーにとって自国の行動計画の設計と実施する際のガイダンスとなるだろう。この特別部会での作業は、食品由来の病原性 AMR に立ち向かうために世界で一貫した考え方と行動を模索し、ワンヘルス（One Health）を達成するために、特に途上国の国々の能力強化を推し進めるだろう。

\*TFAMR7

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/meetings/detail/en/?meeting=TFAMR&session=7>

将来世代のために抗生物質を保存するために無駄にする時間はない

No time to waste to conserve antibiotics for future generations

09/12/2019

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1254770/>

オープニングイベントの紹介。

TFAMR は、各国の抗菌剤耐性への対応を支援するための 2 つの文書の策定が目標となっている。FAO の Jeff Lejeune 氏は次のように述べた。「文書が完成したら、それは各国が独自の規制を立案するのに役立つだろう。」これら文書に関する 2 つの重要な事実がある。「一つは、全ての人々が文書に合意するという協調性と透明性である。二つ目は、科学に基づいていること。だから、それら文書は時を経ても不変なものとなる。」

AMR はチャンピオンとリーダーを求めており、韓国の MFDS が TFAMR においてその役を演じてきた。韓国では抗菌剤の適正使用と使用削減、耐性菌の拡大コントロールによって公衆衛生を保護するための行動計画を 2016 年に掲げた。その計画には農場の衛生やバイオセキュリティの改善を含む。フードチェーンの全ての関係者が AMR と戦うために努力している。

#### ● 加工果実・野菜部会（CCPFV）

コーデックス加工果実・野菜部会は今度の会合に参加を呼びかける

Codex Committee on Processed Fruits and Vegetables (CCPFV) invites participation in its upcoming meeting

06/12/2019

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1254467/>

コーデックス加工果実・野菜部会（CCPFV）の議長である米国 USDA の Richard Boyd 氏は、この革新的なアプローチを次のように説明する。



CCPFV はユニークな場所で 29 回会合を開始する予定であり、関心を持っている全ての国やオブザーバーの参加を呼びかけている。CCPFV は通信作業 (by correspondence : 特定の国や地域に集まらずに会合を開催する) で継続し、部会は新しいことに取り組もうとしている。2020 年 1 月 2 日、CCPFV はコーデックスオンラインフォーム上で 29 回会合を開始する。CCPFV29 ユーザーグループでは、登録作業と会合に関するインフォメーションの配布を現在行っている。

#### 広い参加が必要

部会は全ての議題について検討するだろう : 5 つの規格 (コチジャン、チリソース、マンゴーチャツネ、乾燥フルーツ、フルーツサラダの缶詰) に関する作業。さらに、食品添加物部会、分析・サンプリング部会、生鮮果実・野菜部会からの付託事項への回答作成や、今後の作業の検討も行う。CCPFV29 の作業は議題をこなしていくことになるので、会合は数ヶ月に及ぶだろう。加工果実・野菜の規格と部会の作業を様々な国や地域を反映した横断的なものにするために、この新しい会場にメンバー国やオブザーバーの参加を呼びかけている。規格を国際的でコーデックスメンバーの優先事項を反映したものにするには、広い参加と定足数への到達が重要である。

部会を通信作業で開催することの利点の一つは、会合参加のための移動が必要ないことである。その結果、CCPFV29 は参加と協力について新しい機会を提供することができる。その上、参加経験者は一般原則部会 (CCGP) で作業が進められている議論に有益なインプットをできるだろう (注 : CCGP では、電子的なコミュニケーションのみによる部会のためのガイダンスを検討している)。

---

#### ●欧州委員会 (EC : Food Safety: from the Farm to the Fork)

[http://ec.europa.eu/food/food/index\\_en.htm](http://ec.europa.eu/food/food/index_en.htm)

#### 1. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

Rapid Alert System for Food and Feed (RASFF) Portal - online searchable database

[http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff\\_portal\\_database\\_en.htm](http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm)

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

2019 年第 50 週 の 主な通知内容 (ポータルデータベースから抽出)

\* 基本的に数値の記載がある事例は基準値超過 (例外あり)

\* RASFF へ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

### 警報通知 (Alert Notifications)

オランダ産ポーランドで製造したフードサプリメントの未承認物質テトラヒドロカンナビノール(THC) (299 mg/kg)及び未承認新規食品成分カンナビジオール(CBD)、ポーランド産そば粉のオクラトキシン A (5.6 µg/kg)、ウズベキスタン産ハンガリー経由レーズンのオクラトキシン A (21.5 µg/kg)、スロバキア産森のハチミツのヒドロキシメチルフルフラール(HMF) 高含有 (73.4 mg/kg)、スウェーデン産フードサプリメントの未承認物質シルデナフィール、英国産フードサプリメントの未承認物質シルデナフィール(存在)、ハンガリー産ロゼワインの亜硫酸塩非表示、ベルギー産ドイツで製造したスペルト小麦のオクラトキシン A (7.1 µg/kg)、産出国不明チェコ共和国で包装した低脂肪ココアパウダーの多環芳香族炭化水素 (52.6 µg/kg)、など。

### 注意喚起情報 (information for attention)

ブラジル産オランダ経由ライムのクロルピリホス(0.09 mg/kg)、スペイン産マンダリンのイマザリル(12.9 mg/kg)、米国産フードサプリメントの未承認物質ヨヒンビン、米国産鳥用飼料の残留農薬(エトキシキン 2.1 mg/kg)、イタリア産ハウレンソウのピラクロストロビン (3.6 mg/kg)、中国産レーズンのオクラトキシン A (30 µg/kg)、米国産フードサプリメントの未承認物質ヨヒンビン及び未承認新規食品成分イカリソウ、米国産フードサプリメントのヨウ素高含有(1950 µg/日)、など。

### フォローアップ用情報 (information for follow-up)

スイス産犬猫用補完飼料の未承認飼料添加物カンナビジオール(CBD) (1310 mg/kg)、など。

### 通関拒否通知 (Border Rejections)

トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン(Tot. = 16.53 µg/kg ; B1 = 57.74; Tot. = 131.81 µg/kg ; B1 = 7.93; Tot. = 16 µg/kg ; B1 = 22.1; Tot. = 67.4 µg/kg)、米国産ピーナッツのアフラトキシン(B1 = 3.7; Tot. = 4.2 µg/kg)、トルコ産煎った塩味ピスタチオのアフラトキシン(B1 = 17.86; Tot. = 19,89 µg/kg)、中国産台所用プラスチックコップからのホルムアルデヒドの溶出、中国産ポリアミド製台所用品からの一級芳香族アミンの溶出(63.6 µg/kg)、トルコ産ナッツとドライフルーツミックスのピリメタニル(0.40 mg/kg)及びシプロジニル (0.32 mg/kg)、中国産未承認遺伝子組換え玄米麺、中国産ピーナッツのアフラトキシン(B1 = 5.8; Tot. = 6.5 µg/kg)、米国産ピーナッツ穀粒のアフラトキシン(B1 = 11; Tot. = 13 µg/kg)、中国産シーフラワーピーナッツのアフラトキシン(B1 = 14 µg/kg)、中国産プラスチック皿からのメラミンの溶出(5.5 mg/kg)、中国産プラスチックマグからのホルムアルデヒド(19 mg/kg)及びメラミン(9.4 mg/kg)の溶出、米国産ピーナッツ穀粒のアフラトキシン(B1 = 18.9; Tot. = 21.2 µg/kg)、中国産ベーキングトレイからの鉄の溶出(262.9 mg/kg)及び高濃度の総溶出量(170 mg/kg)、など。



● 欧州食品安全機関 (EFSA : European Food Safety Authority)

[http://www.efsa.europa.eu/EFSA/efsa\\_locale-1178620753812\\_home.htm](http://www.efsa.europa.eu/EFSA/efsa_locale-1178620753812_home.htm)

1. 外部報告書：グローバルな食品及び飼料供給チェーンの地図と分析

Map and analyse global food and feed supply chains

9 December 2019

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-1742>

(EFSA 関係資料として初の公表：著者である BfR が作成し承認した文書であり、EFSA の承認文書ではない。そのため、EFSA は著者の権利を侵害することなく、この文書に記された問題や結論についての権利、見解、立場を留保する。)

2017 年春に、グローバルな食品及び飼料の供給チェーンの安全性のためのリスク評価ツールに関する EFSA-BfR パートナーシップ協定の枠組みが開始された。エリア 1 の課題と成果がフードチェーンラボ(FCL)に集められ、食品由来アウトブレイクへの適用、研修会の実施による使用の普及、追跡専門家の国際ネットワークの確立など、FCL のさらなる開発が含まれている。最終報告書では、2019 年夏までの EFSA - BfR の最初のプロジェクト段階中に達成されたエリア 1 の全活動をまとめ、今後の協力についての概要を示した。最初のプロジェクト段階は非常に成功した。有意義な 3 加盟国(MS)－特別 FCL 養成課程が実施された。さらに EFSA - ECDC 共同ワークショップが 6 加盟国で実施され、FCL と同様に追跡が養成課程の大部分である。別の複数国の FCL 研修会がドイツで、三番目はイタリアで EFSA の職員と加盟国の専門家のために開催された。いくつかのイベントや活動中に追跡専門家のネットワークが開始及び拡大できた。彼らは今後の FCL ワークショップ、問題の追跡における協力、データ交換のフォーマットに関心を示した。FCL の迅速な展開チームによる支援を通して、あるいは MS 自身が自発的に、いくつかの MS - 特別あるいは複数国の食品由来アウトブレイク中に、FCL は追跡分析に適用された。さらに FCL の開発は、FCL ウェブアプリの開発やデータを交換するための他のソフトウェアとの結びつきを押し進める。また、主な成果は、配信データの入力マスクのウェブベースパイロット版の作成や、追跡情報の報告を改善するための視覚化で、例えば、EFSA の迅速な発生評価においては、FCL ウェブアプリの促進、そのデータ収集、報告モジュール、追跡専門家ネットワークの強化など、EFSA、BfR、MS 間の経験の交換の改善が第 2 契約段階中の焦点となるだろう。

2. 飼料添加物関連

全ての動物種用飼料の官能的添加物として使用する際の *Verbascum thapsus* L.由来チンキの安全性と有効性

Safety and efficacy of a tincture derived from *Verbascum thapsus* L. when used as a sensory additive in feed for all animal species

EFSA Journal 2019;17(12):5910 6 December 2019

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/5910>

---

●FS スコットランド (FSS : Food Standards Scotland)

<http://www.foodstandards.gov.scot/>

1. クリスマスの食品安全チェックリスト

Christmas food safety checklist

<https://www.foodstandards.gov.scot/consumers/food-safety/at-home/christmas-food-safety-checklist>

クリスマス食中毒リスクを減らす食品安全チェックリストの提供。クリスマス前、クリスマスイブ、クリスマス当日、クリスマス翌日、に分けて各々の注意点を示す。

\* Christmas food safety checklist

[https://www.foodstandards.gov.scot/downloads/Christmas\\_Checklist\\_FINAL.pdf](https://www.foodstandards.gov.scot/downloads/Christmas_Checklist_FINAL.pdf)

2. 新たな EU の公的コントロール規則

New EU Official Controls

14 December 2019

<https://www.foodstandards.gov.scot/news-and-alerts/new-eu-official-controls>

欧州委員会の安全な食品のためのより賢い規則戦略の一部である、新たな欧州公的コントロール規則 (EU) 2017/625 が 2019 年 12 月 14 日に全英で執行になる。

\* Regulation (EU) 2017/625

<https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?qid=1575903868497&uri=CELEX:02017R0625-20170407>

(注 : EU の食品安全に関する基本規則の大幅改定)

---

● 英国 NHS (National Health Service、国営保健サービス)

<http://www.nhs.uk/Pages/HomePage.aspx>

1. Behind the Headlines

● 食品表示での運動推奨は「食習慣を変える」かもしれない

Exercise advice on food labels could 'change eating habits'

Wednesday 11 December 2019

<https://www.nhs.uk/news/food-and-diet/exercise-advice-food-labels-could-change-eating-habits>

## [habits/](#)

「食品表示での運動推奨は肥満危機に取り組むのに役立つかもしれない」と The Guardian は報道する。包装済み食品のラベル表示は、カロリー数や脂肪のグラム数のような情報を含まなければならない。しかし、多くの人がこれらの措置の意味をわかっていないというエビデンスがある。

最新の研究の研究者は、カロリー数とその食品の燃焼に必要な運動量に変えることを提案した。例えば、必要となる走る時間の表示：

- ・ 330 ml 缶の炭酸飲料を飲んだ後は 13 分間
- ・ 標準的な大きさのチョコレートバーを食べた後は 22 分間
- ・ 店舗で購入したチキンとベーコンのサンドイッチを食べた後は 42 分間

研究者はこうすることで、人々がより低カロリーの食品を選んだり、食べる量を減らしたりすることを促進すると期待した。この研究は、ラベル上の運動表示なし、あるいは他の栄養的表示と比較し、ラベル上の運動に関する表示（PACE、身体活動のカロリー等量、と呼ばれる）のこれまでの試験結果をまとめた。全体として、研究のまとめは、人々は食品選択時に PACE のラベル表示が含まれていると、カロリーがより低いものを選び、より少なく食べたということがわかった。しかし、結果は研究で差が大きく、使用したいくつかの手法は明確でなく、この結果を受け入れることは慎重にならなければならない。

大好きな飲料やお菓子のカロリーがどのくらいか、NHS のウェブサイトのカロリー計算を使用し確認できる。

<https://www.nhs.uk/live-well/healthy-weight/calorie-checker/>

### ● 1日にリンゴを2つ食べると「医者いらず」に役立つ？

Can 2 apples a day help keep the doctor away?

Tuesday 17 December 2019

<https://www.nhs.uk/news/food-and-diet/can-2-apples-day-help-keep-doctor-away/>

「驚くことに、1日にリンゴを2つ食べると、高コレステロール値が低くなることで心臓の健康を促進する」と The Sun は報道する。

この話は、8週間にわたり1日に2つのリンゴを食べると、最大4%とわずかに高コレステロール値を下げたということを発見した小規模の試験に基づく。リンゴには繊維とポリフェノール（様々な健康効果があると思われる化学物質）が豊富に含まれている。この試験には40人のわずかにコレステロール値が高い健康な参加者が関わった。8週間にわたり1日に2つのリンゴを食べた場合、水で薄められた濃縮リンゴジュースで同等のカロリーを摂取した場合と比較して、総コレステロール値と LDL（「悪玉」）コレステロール値がわずかに低下した。

リンゴを食べた後、コレステロール値は健康とされる数値よりもまだ高かったということに注目することは重要である。リンゴを食べることは、スタチンを必要とする人にとってのコレステロール値を低下させる医薬品の代替として見られるべきではない。リンゴを

食べることは NHS の推奨する 1 日に 5 単位の果物または野菜に計上できる。この目標を達成することは、十分なビタミンとミネラルの摂取を確実にし、大腸がんのリスクを減らし、さらに健康的な体重を維持するのに役立つだろう。

---

● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR : Bundesinstitut für Risikobewertung)  
<http://www.bfr.bund.de/>

## 1. 「指紋」が食品偽装を有罪にする役に立つ

"Fingerprint" helps to convict food counterfeiters

29.11.2019

[https://www.bfr.bund.de/en/press\\_information/2019/49/fingerprint\\_helps\\_to\\_convict\\_food\\_counterfeiters-243298.html](https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2019/49/fingerprint_helps_to_convict_food_counterfeiters-243298.html)

ー 「FoodAuthent」(食品真正) : 研究事業が製品の起源と真正性に関する安全性をさらに保証する概念を提示ー

ワインのグリコール、スピリッツのメタノール、「腐った肉」、いずれにせよ食品スキャンダルは製造業者、小売業者、当局への信頼を損なう。供給チェーンのグローバル性や、製品の多様性や新しい製造技術が増えていることを考えると、商品がどこからきて、それらが表示されているとおりであるかを確認するのはますます困難になっている。この「fAuthent」オープンソースソフトウェアは「FoodAuthent」研究事業の一環としてこのような背景で開発された。この 3 か年計画で、このソフトウェアには広範囲にわたる食品モニタリングで「指紋」分析法を導入する可能性があることが明らかになった。このプロジェクトの結果は 2019 年 11 月 26 日に BfR が開催した専門家会議で示された。

\* プロジェクトのウェブサイト : [www.foodauthent.de](http://www.foodauthent.de)

このプロジェクトは 2019 年 12 月末に終了するが、食品の組成を決定できる分析法も試行された。そうすることで、個別の化学物質の「指紋」(いわゆる「指紋法」)の概略を説明できる。この「指紋」はその後、関連するデータベースに保存されている真正の食品サンプルと比較できる。加えられた何らかの物質を含む偽物は、この方法で確認できる。同様に、製品の原産地、使用品種、製造工程も分析できる。この比較は、製品が表示上に示されている食品と実際に同じかどうか明確にすることができる。「分析的指紋法は、従来の標的検査を補完する。それらは食品偽装と闘うための努力の重要な要素である。」と BfR 長官 Andreas Hensel 医学博士は述べた。

分析的指紋法は、例えば、ハードチーズ、食用種子油、スピリッツ製品のグループに由来する商品で試された。fAuthent ソフトウェアの意図は、公的機関と食品企業どちらにも将来効率的に指紋情報を交換する機会を与えることである。この目標を達成するために fAuthent は、様々な「指紋」、基準測定値、データ解析法がローカルで保存でき、共有資源

として提供できるような必要なソフトウェア基盤を提供する。

このプロジェクトパートナーは、製造業者、小売業者、当局の間で指紋情報を安全に転送することができる、より使用者が使いやすい方法でデザインされたオープンソース上の IT プラットフォームをさらに拡大することを計画している。この fAuthent システムは、全てのシステムパートナーが自分のデータを管理できることを保証する。

「食品起源の保証」に焦点を当てた当該研究と共に、この FoodAuthent 研究事業にはドイツ連邦食糧農業省(BMEL)が資金提供している。ドイツ連邦リスク評価研究所、Konstanz 大学、GmbH & Co. KG 社、Eurofins Analytik GmbH 社、GS1 Germany 社、Lablicate GmbH 社が協力している。

## 2. 健康リスク：一枚の絵が数千の言葉に相当する

Health risks: a picture is worth a thousand words

50/2019, 04.12.2019

[https://www.bfr.bund.de/en/press\\_information/2019/50/health\\_risks\\_a\\_picture\\_is\\_worth\\_a\\_thousand\\_words-243325.html](https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2019/50/health_risks_a_picture_is_worth_a_thousand_words-243325.html)

ーリスクコミュニケーションにおけるビジュアライゼーションの使用に関する BfR ワークショップ

食品の汚染、電磁波あるいは乳がんスクリーニングであれ、人々は日常生活において多くの健康問題に直面し、その中には複雑なものもある。特定の健康リスクの図を使った説明（可視化）は情報の把握向上に役立つことがある。しかし、これらのツールをリスクコミュニケーションにおいて効果的に使用することができるようになるために、視覚的ツールの効果に関する追加の研究が必要とされる。これはベルリンのドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）で 2019 年 11 月 25 及び 26 日に開催された国際的なワークショップで専門家の間での議論のテーマであった。もう一つの議論のテーマ：（認識されている）リスクに関する情報交換は専門家と素人の相互理解を深めるのに役立つだろう。ここでも可視化は重要な役割を果たすことができる。BfR 長官 Dr. Andreas Hensel 教授は「グラフィック的要素はリスク評価の鍵になる要因である明確な『一目見てわかる』イラストを提供する。それらは健康リスクをよりよく評価するのに役立ち、それらを取り扱う人々の能力も高める。結果として、これらの可視化の可能性をさらに研究することが必要である。」

---

●オランダ RIVM（国立公衆衛生環境研究所：National Institute for Public Health and the Environment）

<http://www.rivm.nl/en/>

1. 全ての人のための持続可能で健康的な未来に向けて：EU プロジェクト INHERIT が

## 政策的解決法を提供する

Towards a sustainable, healthy future for everyone: EU project INHERIT offers policy solutions

12/10/2019

<https://www.rivm.nl/en/news/towards-sustainable-healthy-future-for-everyone-eu-project-inherit-offers-policy-solutions>

INHERIT は、EC の補助金で 2016～2019 年の 48 か月/4 年間に実施されたホライズン 2020 プロジェクトであり、EuroHealthNet を筆頭に 18 団体が参加。12 月 10 日の INHERIT の最終会合では政策ツールキットが紹介される。我々の現在の消費及び生産パターン、行動とライフスタイルは時に不健康で非持続的である。INHERIT プロジェクトは、より健康的でより持続可能なライフスタイルに寄与する政策や実践的イニシアチブを探し、同時に健康の不平等を減らすというトリプルウィンである。

RIVM は、食品生産や消費の環境への影響を含む様々な課題についての文献レビューの作業を先導した。さらに、分野横断的な協力の定性的評価に協力した。プロジェクトの結果を制作決定者向けツールキットに反映させるのを支援した。

\*INHERIT Policy Toolkit

<https://inherit.eu/policy-toolkit/>

3 つのツール、10 の助言、付属書類からなる

### 10 の助言

1. アクセス可能な質の高い緑の空間
2. エネルギー効率の良い住宅
3. 活動的な輸送
4. 持続可能で健康的な食品
5. 統合された行動
6. 民間部門ガイド
7. インクルーシブな地域の参加
8. ボトムアップを支援
9. 行動変容を可能にする
10. 教育・訓練

## 2. オランダ集団の日々の塩と砂糖摂取に与える食品中塩と砂糖濃度を下げることの影響推定

Estimated effect of lower salt and sugar levels in foods on the daily intake of salt and sugar of the Dutch population

13-12-2019

<https://www.rivm.nl/publicaties/geschat-effect-van-lagere-zout-en-suikergehalten-in-voedingmiddelen-op-dagelijkse-zout>



(本文オランダ語、要約のみ英語)

2014年以降食品業界は塩砂糖脂肪含量を減らす合意をしている。2017年半ばまでの進行状況報告では、この合意によるオランダ人の塩と砂糖の摂取量削減に向けた前進は小さい。食品の組成を改善する他に、消費者がより健康的な選択をすることが重要。

### 3. 雑草や緑の沈着物をコントロールするのに酢を使うことのリスク

The risks of using vinegar to control weeds and green deposits

18-12-2019

<https://www.rivm.nl/publicaties/risicos-van-azijn-bij-bestrijding-van-onkruid-en-groene-aanslag-door-particulieren>

(本文オランダ語)

酢酸を含む植物保護製品がいくつかオランダで認可されていて合法的な製品が販売されているが、多くの人が洗浄用の酢や食用酢を使っている。それは禁止されている。RIVMは、認可されていない製品を使用することによる環境や使用者へのリスクを、認可された製品の場合と比較した。

インターネット上には、雑草や緑の沈着物を除くのに酢をどのように使えばいいのか簡単なコツが掲載されている(瓶で注ぐ、スプレーを使うなど)。酢は、販売用には最大80%酢酸の濃度である。36%以上の酢酸濃度で水面上に広く散布すると水生生物にリスクとなる。6.6%酢酸の散布でも、すでに散布場所の隣に生える植物にはリスクがあり、54%酢酸より濃いと土壌生物に影響を与える。もしボトルなどで大量の酢を土壌に直接かけるなら、土壌生物には急性リスクとなる。植物や土壌に生息する昆虫もリスクにさらされる。

認可されていない製品は使用者にとってもリスクがある。酢の酢酸濃度が10%を超えると、接触により皮膚刺激や深刻な目への刺激がある。25%以上になると、やけどや目の傷害を生じる可能性もある。吸入すると呼吸器系に同じような影響がでる。認可された製品は酢酸濃度が低く(6%)、すぐに使える状態で販売されている。個人で使う場合には、たいいてい防御することもなく使用するので、高濃度の酢酸に接触するリスクが高い。

---

●フランス食品・環境・労働衛生安全庁(ANSES : Agence Nationale de Sécurité Sanitaire de L'alimentation, de L'environnement et du Travail)

<http://www.anses.fr/>

#### 1. フードサプリメントにベルベリン含有植物の使用

Use of berberine-containing plants in food supplements

News of 25/11/2019

<https://www.anses.fr/en/content/use-berberine-containing-plants-food-supplements>

ベルベリン含有植物は、欧州レベルで健康強調表示は認可されていないが、主に血糖値とコレステロール値を調節するためにフードサプリメントに使用されている。これらのフードサプリメントの使用の安全性を確保する可能性が高い条件を特定するために、ANSES はベルベリンの健康影響、特に毒性学的プロファイルを調べた。専門家評価に従って、ANSES は、実証されている薬理効果が成人において 400 mg/日の用量から生じていることを確認したが、より低用量でもそのような影響が起こる可能性を排除していない。そのため ANSES は、ベルベリン含有製品に適用できる規制を定義する基礎を提供するために、薬理効果に関連する最小用量を特定するさらなる研究を行うよう助言している。しかしながら、入手可能な毒性学的データや特定のサプリメントに観察された濃度に照らして、これらのフードサプリメントの使用の安全性はまだ保証できていない。従って、ANSES は子供、青年、妊婦、授乳中の女性、特定の感受性の高い集団を含む特定の集団グループに、ベルベリン含有フードサプリメントの摂取を控えるよう助言する。ANSES はまた、特定の治療の有効性を損なう可能性のある多数の医薬品と相互作用するベルベリンの作用に対して医療従事者に注意喚起もしている。

ベルベリンはフードサプリメントに使用される多様な植物に見られるイソキノリンアルカロイドである。これらのサプリメントは、通常は血糖値やコレステロール値を調節するために摂取されているが、ベルベリン含有植物やイソキノリンアルカロイドグループの物質に健康強調表示は欧州規制で現在認可されていない。ANSES は、フランスでベルベリンを含む植物あるいは植物製剤で作られたフードサプリメントの安全な使用条件を設定するよう、フランス競争・消費・不正抑止総局(DGCCRF)に指名された。

#### 食品サプリメントのベルベリンに関する規制

ANSES は EU 各国のベルベリンの規制状況を調査し、その毒性を評価するために文献をもとにデータ分析も行った。欧州では、フードサプリメントのベルベリンの使用規制は国により様々である。この物質は、ベルギーでは最大一日用量 10 mg が設定されているなど、国によって認可や禁止されたり、他の制限を受けたりしている。フランスではいくつかのベルベリン含有植物がフードサプリメントとして市販されている。これらの植物にベルベリンの最大一日用量は定義されていないが、表示には、妊婦にこれらの製品を使用しないよう助言する警告を含まなければならない。

#### 明確化が必要な規制状況

文献の臨床データでは、ベルベリンが、心血管(血圧と心拍数への影響)、神経系(痙攣、抗うつ、鎮痛作用)、免疫系(抗炎症、免疫抑制効果)、代謝(低血糖、脂質低下作用)に関して成人の 400 mg/日から薬理効果があることを示している。これは、ベルベリンがこの用量で食品としてではなく薬として作用していることを意味している。しかしながら、このデータのレビューは、フードサプリメントにベルギーで設定されたイソキノリンアルカロイドの一日用量 10 mg 以下を含む、より低用量で生じる薬理効果の可能性を除外しなかった。そのため、ANSES は、ベルベリン含有製品の規制状況の定義の基礎を提出するために、薬理効果に関連した最小用量を特定するためにさらなる試験に着手するよう助言している。

## 消費者の安全性を保証しない使用条件

堅固な毒性的研究が得られなかったため、専門家はベルベリンの毒性学的参照値(TRV)を設定できなかった。良質の毒性的研究に基づいた TRV の決定を待って、一時的に使用できる指示毒性値(iTV) 1.7 µg/kg 体重/日だけを定義できた。この iTV は 60 kg の人には 0.1 mg/日の用量に相当し、フランスで現在市販されている非常に多くのフードサプリメントで超過しそうである。従って新たなデータがなければ、使用の安全性は保障できない。経済協力開発機構(OECD)のガイドラインに従ったベルベリンの毒性試験を実施し、毒性学的参照値の設定に取り掛かるよう ANSES は助言している。

ANSES はまた、ベルベリンを含む植物あるいは植物製剤で作られたフードサプリメントの摂取は、胃腸障害、低血糖、低血圧を含むリスクを引き起こす可能性があることも強調した。子供、青年、妊婦、授乳中の女性、糖尿病の人、肝臓や心臓障害のある人にはリスクがより高いため、ANSES はこれらの集団グループにベルベリン含有フードサプリメントの摂取を控えるよう助言した。

さらに、専門家が特定した非常に多くの薬物相互作用を踏まえて、薬物治療と組み合わせたベルベリンを含むフードサプリメントの摂取がその効果を阻害したり、悪影響をもたらす可能性があるため、ANSES は医療従事者は特に警戒するよう呼び掛けている。

## 2. 動物の健康における抗菌剤耐性モニタリングの ANSES の仕事

ANSES's work in monitoring antimicrobial resistance in animal health

News of 21/11/2019

<https://www.anses.fr/en/content/ansess-work-monitoring-antimicrobial-resistance-animal-health>

世界抗生物質啓発週間と欧州抗生物質啓発デーを機に、ANSES は 2018 年の動物の健康における抗菌剤耐性に関する状況をレビューする 2 つの報告書を発表し、「抗生物質は貴重であり、より慎重に使用するようにしよう」と題した 11 月 20 日の関係閣僚のシンポジウムに参加している。ANSES は動物の健康とフードチェーンにおける抗菌剤耐性のテーマに積極的に参加する。その研究、レファレンス、サーベイランス及びリスク評価活動は、畜産農業、食品及び環境の分野における抗菌剤耐性に関連するリスクをより深く理解することに貢献する。これは、人間も動物も含む「ワンヘルス (One Health)」の考え方に従い、すべての種類の医薬品にかかわる統合的アプローチの一環である。

### ➤ 抗菌剤耐性と闘う上で、ANSES の役割は何か？

ANSES は動物用医薬品における抗菌剤の使用を追跡し、監視し、さらに動物の抗菌剤耐性を研究し、安全かつ効果的な動物用抗菌剤のみ市販を許可する。

### 動物における抗菌剤使用の追跡

毎年、ANSES はフランスにおける抗菌剤を含む動物用医薬品の販売に関する報告を発表する。動物用医薬品の抗菌剤販売を監視し、指標細菌を測定するフランス国立動物用医薬品局 (ANMV) のほかに、ANSES のプルフラガン・プルザネ・ニオール及びリヨンの研究所

も一緒に、抗菌剤の処方と使用に関する分類データを収集するその場その場の畜産調査も実施する。

\* 「抗菌剤を含む動物用医薬品の販売調査」 2018 年報告書（フランス語）

<https://www.anses.fr/system/files/ANMV-Ra-Antibiotiques2018.pdf>

#### 動物と食品における微生物耐性の存在の監視と理解

ANSES は抗菌剤耐性に対する国立参照試験所であり、そのため、欧州レベルでの統一サーベイランス計画の一環として、フードチェーンの微生物耐性を監視する。動物由来の病原性微生物の耐性を監視し、欧州でその種の唯一のネットワークである RESAPATH をとりまとめる。

\* 動物由来の病原性微生物の抗菌剤耐性に関するフランスのサーベイランスネットワーク（RESAPATH） 2018 年報告書（pdf フランス語）

<https://www.anses.fr/system/files/LABO-Ra-Resapath2018.pdf>

\* Résapath ネットワークについて

<https://www.anses.fr/node/131551>

#### 安全かつ効果的な動物用抗菌剤の販売許可を与え、それらを監視する

ANSES の一部である、ANMV はフランスの動物用抗菌剤の市販認可(MAs)を行う。この中で、一連の耐性微生物により引き起こされる特殊なリスクを考慮に入れながら、動物、消費者及び環境に対する品質、有効性及び安全性を評価する。

\* 「動物用医薬品の市販後 Post-MA サーベイランス」 報告書（pdf フランス語）

<https://www.anses.fr/system/files/ANMV-Ra-Pharmacovigilance2018.pdf>

#### ➤ 2018 年の結果

動物由来の微生物における抗菌剤耐性のモニタリングに関するデータ。

#### RESAPATH

- 重要な抗菌剤に対する微生物耐性の減少傾向が確認された
- コリスチンに関し、データによると状況はこの抗菌剤に対する耐性は一定して減少し、この 10 年間コントロールされている。
- 2018 年はネットワークにより 565,000 以上の耐性記録が採取された。

#### フードチェーンにおける微生物の耐性

- フランスで販売される鶏肉中の基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ（ESBL）および AmpC 型 β ラクタマーゼ産生菌である *E. coli* の汚染は大幅に減少：2016 年 62% に対し 2018 年 26%
- この 58.3% の減少は、流通段階で鶏肉（ブロイラー種）サンプル中の ESBL *E. coli* 汚染において、5 年間で 50% の減少という Ecoantibio 計画(2017-2021)により設定された目標を超えるものである。

#### 動物用医薬品中抗菌剤の販売のモニタリング

- これについては、2017 年に比較し、5.5% 販売減少を示す。1999 年以降、最も少ない量（471 トン）を記録する。

- 2011 年以降、有意に一定した減少の後、動物の抗菌剤に対する全体的な暴露は 2017 年と 2018 年の間に 0.7% 増加した。使用の減少はいくつかの抗菌剤分類にとって限界に達したようで、この傾向がどのように進化するかに関して油断しないことが重要である。

これらの結果は全体として非常に肯定的なものであるが、いくつかの分類に対し限界に達した可能性があることを示し、動物用医薬品における抗菌剤の分別ある、理性的な使用に対する取り組みは続けていくべきであることを示す。

### 3. コハク酸脱水素酵素阻害剤 (SDHI) の最新情報

#### SDHI update

News of 08/11/2019

<https://www.anses.fr/en/content/sdhi-update>

試験管内で培養された細胞に対する SDHI 農薬の毒性に関する科学雑誌 *PLOS One* の 11 月 7 日の論文発表を受け、ANSES は実際の状況下でのこれらの物質の暴露による健康影響の可能性に関する研究を他の科学研究や専門家評価の組織と協力し、続けていることを指摘する。

これに関連し、他の最新の発表と併せて、研究所が現在農薬の健康影響に関する知見を更新している専門家集団評価の中で、この発表のデータを考慮するよう INSERM (フランス国立保健医学研究所) は依頼された。

科学的リスク評価はすべての利用できる知見、特に作用メカニズム及び細胞 (*in vitro*) と動物 (*in vivo*) の実験的毒性に基づくので、これは重要である。昨日発表されたその論文は、実験条件下の細胞株で得られた最新のデータを提供する。論文で著者が指摘しているように、いずれの場合でも、作物に農薬を散布し生ずるだろう SDHI 濃度と、研究所の条件下で *in vitro* で得られた IC50 値と比較することは賢明でない。

2019 年 1 月 14 日の意見書を更新するために、ANSES は INSERM の専門家集団評価の結果を含め、SDHI 農薬に関するすべての最新の研究を調査することに結集しているので、興味深いこれらのデータは、科学専門家によって吟味されるだろう。

ANSES は科学者のチームによる報告の後、独立した科学専門家の集団を招集し、1 月 14 日に SDHI 農薬の市販許可の撤回を正当化する健康的警告は何もなかったと結論を出したと指摘する。しかし、ANSES は欧州や国際的なレベルで監視を呼びかけ、食品、大気及び土壌を介した暴露を記録するために、また現在ある監視スキームでの健康影響の可能性を発見するために、ヒトの毒性影響の可能性に関する取り組みを続けることを決定した。

ANSES は食品を介した様々な SDHI 農薬の累積暴露の問題に取り組むために率先して行動した。また、2020 年前半にその知見を発表するだろう。

ANSES の使命はヒトと環境を保護するために健康リスクを科学的に評価することである。植物保護製品については、疑念が起き、健康警告が確認されればいつでも遅れることなく、市販認可を修正あるいは撤回する。



\*参考：食品安全情報（化学物質）No. 3/2019（2019.02.06）

【ANSES】コハク酸脱水素酵素阻害剤（SDHI）殺菌剤：ANSES は専門家による評価結果を公表

<https://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2019/foodinfo201903c.pdf>

#### 4. フランスにおける除草剤耐性品種の使用

Use of herbicide-tolerant varieties in France

28/11/2019

<https://www.anses.fr/en/content/use-herbicide-tolerant-varieties-france>

除草剤耐性品種(HTVs)は特定の除草剤に耐性があるように開発された作物種である。10年以上にわたるフランスでの広がりを考え、国民の関心に応じて、ANSES は特にヒマワリと菜種作物への使用を再調査した。フランスの全作物の種子同様 HTVs は市販前のリスク評価の対象ではなく、今日までそのような種子のモニタリングは要求されていない。ANSES はフランスの HTVs の使用について、HTVs の状況を見直すために様々な関係者のそれぞれの見解を集め、可能な限り多くのデータ収集に取り組んできた。農業慣習を研究した後、ANSES は、2011年に INRA と CNRS による共同専門家報告書ですでに示されているように、雑草が除草剤に対する耐性を発現するリスクがあり、除草剤の使用が最終的に増加する可能性があることを確認した。ANSES は HTVs 種子の使用におけるトレーサビリティの欠如が農業と健康の影響評価を妨げることも強調している。それゆえ ANSES は、HTVs によるあらゆる有害影響を監視する計画を設定するよう助言している。

HTVs は、従来の又は遺伝子技術によって除草剤に耐性があるように開発された植物品種である。フランスでは遺伝子組換え HTVs の栽培は禁止されており、全ての HTV 作物は従来の品種選択またはランダムな突然変異誘発で得られている。遺伝子組換え生物に関する法律では、突然変異誘発で得た生物は評価も市販認可も必要なく、今日までそのような生物の監視は必須ではない。ANSES の意見は、農業でのバイオテクノロジーの使用に関する議論や突然変異で得られた生物に関する EU の裁判所の判断のより広い文脈で形成されており、規制の枠組みに影響を与える可能性が高い。

##### フランスの HTVs 使用に関する前例のないレビュー

専門家評価を通して、ANSES は HTVs の使用を含む農業慣習に関するできるだけ多くの入手可能なデータや、ヒトの健康や環境に関する潜在的な有害影響の監視によるデータを集め分析することができた。ANSES はまた、専門家コミュニティと市民社会の両方でこの話題に関する様々な見方を集めるために、関係者にインタビューも行った。これらのデータを根拠にして、ANSES はフランス国立農業研究所(INRA)とフランス国立科学研究センター(CNRS)が 2011年に実施した共同科学的専門家評価で確認された HTVs の使用と関連するリスクを研究した。その結果、ANSES の報告書はフランスの HTVs の使用に関する包括的なレビューを提供している。

フランスで使用されている品種、特にヒマワリと菜種作物



これらの植物品種を作るのに品種選択あるいは新しい育成技術(遺伝子組換え)が用いられることがある。品種選択は、生来除草剤に耐性があるものと既存品種とを交配させ選択した植物のことである。新たな育成技術には、望ましい特質のある生物を選択するための遺伝子組換え、生物のゲノム内の 1 つまたは複数の遺伝子の導入と組み込み、いくつかのランダム突然変異誘発技術が含まれる。

これらの品種は雑草防除に対する特定の技術的障壁を取り除くために使用される。雑草、つまり作物に対する脅威となる植物が現れたら、特定の除草剤でその作物を処理することも有利である。フランスで使用される主な作物品種は、アセト乳酸シンターゼ(ALS)阻害剤クラスの除草剤への耐性があるように開発されたヒマワリと菜種品種である。集めたデータによると、2017年に油糧種子 HTVs が植えられた土地は、ヒマワリ作物エリアの 27%(約 160,000 ha)を占め、菜種作物エリアの 2%(約 30,000 ha)を占めた。HTV ヒマワリと菜種作物の総エリアは 2017 年以降横ばいであるようだ。

インタビューした様々な関係者は、どの品種にどの技術を用いたか、特定の規制の枠組みが欠如しているかどうかについて意見が合わない。HTV 使用反対者は、除草剤の使用が高まるリスクや、そのような品種の使用における透明性とトレーサビリティの欠如を指摘し、野外の雑草の種類に応じた雑草を防除できる農業問題の解決方法として、また化学的除草剤の合理的使用だと考える HTVs 支持者との間に分裂が生じた。

#### HTV 種子の使用におけるトレーサビリティの欠如

専門家は HTVs の使用に関する入手可能なデータ、特に製造業者と専門農家が 2012 年に行った HTVs の市販を支持する国家計画の一部として提出されたデータを分析した。様々なフィトファーマコビジランスパートナープログラムを通して作られた監視データも分析された。

その専門家評価で ANSES は、使用された HTV 種子に関するデータや、除草剤の使用を含む HTV 農業慣習が多くの不確実性を含むことを示した。これらのデータは不完全あるいはそれほど代表的でない。例えば、フランスでも欧州当局でも、各種カタログにフランスで栽培できる HTVs を確認する明確な信頼できるリストは含まれていない。そのため ANSES は、農業慣習やフランスでの HTVs の使用のモニタリングを妨げる HTV 種子のトレーサビリティの欠如を強調した。

HTV 作物に関連する可能性のある有害影響の調査について、HTVs に使用された除草剤による環境汚染に関する収集データは、これらの除草剤が穀物など他の作物の雑草防除にも使用されるため、HTVs に特化してない。さらに、フランスの残留農薬調査のための国家計画は、収穫した HTV ヒマワリや菜種作物での HTVs に関連した残留除草剤の検出に、今まで焦点を当てたことはない。

#### 確認したリスク要因

今日まで研究したデータから影響は観察されていないが、ANSES は HTVs の使用に関連する可能性のあるリスクを強調している。その結果 ANSES は農業慣習のレビュー後に、INRA と CNRS の専門家報告書ですでに強調されているリスク要因、特に、除草剤耐性の

発生、従来型の作物と比べて除草剤の使用増加、そして最終的に、除草剤による環境汚染を確認した。

この構想には、HTVsを含む作物により頻繁に使用されている、同じ作用機序でより多くの除草剤につながる可能性のある3つのリスク要因をまとめたレビューが含まれている。

- ・短い輪作の実践
- ・油糧種子や穀物作物の雑草防除のためのALS阻害剤と同じクラスの除草剤の散布
- ・HTVsでない区画に類似したHTV区画に除草剤の使用

#### フランスでのHTV監視導入

専門家評価後にANSESは、収集したデータの量と質が限られているため、潜在的な有害影響について結論したりリスク評価を実行することができなかったと強調している。従ってANSESは、作物に実際に使用されるまで追跡することのできるHTV種子監視プログラムを設定するよう助言している。このプログラムは関連する農業慣習の知見を改善したり、関連地域でヒマワリや菜種作物のHTVs関連除草剤残留物の監視を強化するのに役に立つだろう。

HTVsの潜在的な健康影響を評価するために、ANSESは、植物保護活性物質について、欧州評価に含まれていない可能性のある何らかの特別な代謝物質が形成されているかどうかを確認するための特別な研究を行うよう助言している。

最後にANSESは、雑草に生じる除草剤耐性リスクについて農業従事者間の意識を高めるよう助言した。

#### **5. ニース行政裁判所の決定：ANSESはスルホキサフロルを含む二つの殺虫剤の販売認可を取り下げ**

Decision of the Nice Administrative Court: ANSES withdraws marketing authorisations for two insecticides containing sulfoxaflor

06/12/2019

<https://www.anses.fr/en/content/decision-nice-administrative-court-anses-withdraws-marketing-authorisations-two-insecticide-0>

ANSESは欧州委員会が承認した有効成分スルホキサフロルを含む殺虫剤「Transform」と「Closer」の市販認可を取り消すニース行政裁判所の決定に留意した。

全ての植物保護製品の市販認可と同様に、2017年9月27日に発行されたこれらの認可に、ANSESは入手可能なすべての科学的文献を考慮して、欧州の規制の枠組みを厳密に適用したと強調した。この枠組みには科学的リスク評価や適切な保護措置の確立が含まれ、必要な時にはいつでも、予防原則が完全に適用される。

政府がフランスEGAlim法を適用して、ネオニコチノイドと同じ作用機序を持つ2つの植物保護製品であるスルホキサフロルとフルピラジフロンの使用禁止を決定したため、ANSESがニース裁判所の決定に対して控訴することはない。

## 6. ANSES はグリホサートを含む 36 製品の取り下げを発表

ANSES announces the withdrawal of 36 products containing glyphosate

09/12/2019

<https://www.anses.fr/en/content/anses-announces-withdrawal-36-products-containing-glyphosate>

この有効成分が 2017 年に EU で 5 年間再認可されたことを受けて、ANSES はフランスで販売されているグリホサートを含む製品の市販認可をレビューし、入手可能な代替品と比較評価を始めた。製造業者から提出されたデータでは遺伝毒性の可能性に関して決定には至らなかったため、現在のプロセスが終わるのを待たずに、ANSES はグリホサートを含む 36 製品の認可の取り下げと 4 つの新製品の認可拒否を発表した。2018 年にはこれらの製品は、農業及び農業以外の利用で、フランスで販売されたグリホサートを主成分とする製品のトン数のほぼ 4 分の 3 を占めていた。

植物保護製品の市販認可の更新あるいは取得を希望する企業が提出した認可申請の欧州加盟国による評価は、EU が決めた枠組みで行われている。

グリホサートについて、健康及び環境リスクと、特にグリホサートを含む製品の全成分の遺伝毒性に関する追加データの提出を含むより厳しい条件で、この枠組みはこの有効成分の再評価後の 2017 年に特に強化された。これらの新たな条件には堅固で標準化された方法で実行された特別な研究が必要である。

グリホサートを含む 69 製品は現在フランスの市場で入手でき、認可の更新のための申請が提出されている。ANSES は今回これらの製品のうち 36 製品は、どんな遺伝毒性リスクも除外できる科学的データがないことにより、市場から撤退し 2020 年末から使用できないと決定した。さらに、同じ理由で、2018 年 1 月以降に提出され現在調査中の 11 の新たな認可申請のうち 4 つに否定的な決定を発表した。

ANSES はグリホサートを含む製品の認可や再認可の申請を調査し続けていて、2018 年 11 月に発表したように、入手可能な非化学的代替品との比較評価も行うことにしている。主張された使用が欧州レベルで決定した有効性と安全性の基準にかない、そして十分に代用できないグリホサートベースの製品だけが、最終的にフランス市場に入る権利が許可されることになる。この評価プロセス全体は 2020 年 12 月 31 日に完了する予定である。

---

● 米国食品医薬品局 (FDA : Food and Drug Administration) <http://www.fda.gov/>,

### 1. FDA は小規模農場の査察の開始に柔軟性を持たせる

FDA Provides Flexibility for Start of Routine Inspections on Small Farms

December 6, 2019

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-provides-flexibility-start-routin>

## [e-inspections-small-farms](#)

FDA は食品安全近代化法（FSMA）の農産物安全規則に従い、州がスプラウト生産を除く小規模農場の定期的な査察を実施し始める時期に柔軟性を持たせる。

州によるそのような定期的査察は通常なら 2020 年春に開始予定であるが、FDA は、State Produce Implementation Cooperative Agreement Program (CAP)の一環で競争的資金 A/B を受けている州についてはより速い 2020 年 1 月 1 日に開始しても良いと明確にしている。これは定期的査察に柔軟性を持たせて欲しいといういくつかの州からの要請による。

## 2. FDA は食料生産動物用抗菌剤の販売又は流通に関する年次概略報告書 2018 を発表

FDA Releases Annual Summary Report on Antimicrobials Sold or Distributed in 2018 for Use in Food-Producing Animals

December 10, 2019

<https://www.fda.gov/animal-veterinary/cvm-updates/fda-releases-annual-summary-report-antimicrobials-sold-or-distributed-2018-use-food-producing>

FDA は国内における食料生産動物用抗菌剤の販売又は流通に関する年次概略報告書 2018 を発表した。この概略報告書は、2017 年から 2018 年の調査に基づく。得られた主な知見は次の通り。

### 食料生産動物への使用が認可されている医学的に重要な抗菌剤の国内販売と流通

- 2017 年から 2018 にかけて 9%増加
- 2015 年から 2018 年にかけて 38%減少
- 2009 年から 2018 年にかけて 21%減少
- 国内販売量が最も多い (3,974,179 kg/2018 年) テトラサイクリンは 2017 年から 2018 年に 12%増加

### 食料生産動物への使用が認可されている医学的に重要な抗菌剤の 2018 年の販売と流通

- テトラサイクリン 66%、ペニシリン 12%、マクロライド 8%、サルファ剤 5%、アミノグリコシド 5%、リンコサミド 2%、セファロスポリン 1%、フルオロキノロン 1%未満。
- 推定で、42%がウシに使用、39%がブタに、11%が七面鳥に、4%が鶏に、4%がその他/不明。
- 推定で、セファロスポリンの 81%、サルファ剤 67%、アミノグリコシドの 47%、テトラサイクリンの 44%がウシへの使用、リンコサミドの 83%とマクロライドの 41%がブタへの使用、ペニシリンの 63%が七面鳥への使用。

ただし、販売データは必ずしも実際の抗菌剤の使用を反映しているわけではない。経時的に観察された販売量は市場変動の価値ある指標ではある。FDA の目的は、抗菌剤耐性の発生を緩やかにし、動物やヒトの疾病に対抗するための抗菌剤の有効性を保持することである。調査の狙いは、単に販売量の減少を測定することではなく、使用を適正にすることによる優良な抗菌剤管理を育むことである。

この報告書を分析するときに、読者は次のことに留意して欲しい。

- ✓ 販売と流通に関する情報は製品の実際の使用を表しているわけではない。
- ✓ ヒト用と動物用の抗菌剤の販売量を直接比較する前に考えるべきことがある：動物の方が人間よりも多い。生理学的な違いや体重の違いがある、代謝も異なる、など。
- ✓ 種間の販売量推定の直接比較については注意すること：集団サイズ、体重、寿命、代謝が異なる。
- ✓ 異なる薬剤の販売量の直接比較については注意すること：全ての薬剤が必ずしも全ての動物種に認可されているわけではない、など。

\* 2018 Summary Report on Antimicrobials Sold or Distributed for Use in Food-Producing Animals

<https://www.fda.gov/media/133411/download>

### 3. 食品小売業政策改訂要望準備時に考慮する 5 つのこと

5 Tips to Consider When Preparing Recommendations for Changes to Retail Food Policy  
12/06/2019

<https://www.fda.gov/food/retail-food-protection/5-tips-consider-when-preparing-recommendations-changes-retail-food-policy>

FDA の食品小売業保護担当は「食品小売業政策改訂要望準備時に考慮する 5 つのこと」を発表する。

1. 対応すべき問題点を定義する
2. その問題の原因を記述する
3. 現在の政策が何故その問題に対応していないのか説明する
4. あなたの提言を提示し、それが他の代替案に比べてどうなのか説明する
5. その提案の影響を詳述する

\* PDF 版

<https://www.fda.gov/media/133259/download>

### 4. FDA は連邦法違反の差止同意判決により、Basic Reset and Biogenyx が回収している医薬品、ダイエタリーサプリメント及び医療機器を使用しないよう消費者に強調する

FDA underscores that consumers should not use drugs, dietary supplements and devices recalled from Basic Reset and Biogenyx following consent decree for federal violations

December 10, 2019

<https://www.fda.gov/news-events/press-announcements/fda-underscores-consumers-should-not-use-drugs-dietary-supplements-and-devices-recalled-basic-reset>

FDA は Basic Reset and Biogenyx により販売された 25 品の医薬品、ダイエタリーサプリメント及び医療機器製品を使用しないよう消費者に警告する。終局的差止命令に同意されている。

本件は、2012年から2017年の複数回のFDA査察と2016年に発送した警告文書を受けての実施である。FDAから企業に送った警告文書に記した違反事項についての是正が行われず、フォローアップ査察でも必要とされる改善が行われていないことが判明している。

## 5. ダイエタリーサプリメント成分助言リスト

Dietary Supplement Ingredient Advisory List

12/16/2019

<https://www.fda.gov/food/dietary-supplement-products-ingredients/dietary-supplement-ingredient-advisory-list>

ダイエタリーサプリメントとして販売される製品に含まれることが違法であるとFDAが同定した成分について、公衆に向けて迅速に警告するために「FDA ダイエタリーサプリメント成分助言リスト」を公開している。本日、新たに3成分を追加した：硝酸ビスマス、スルブチアミン、テトラクロロ金酸ナトリウム。それぞれに複数の別名が紹介されている。

\*参考：食品安全情報（化学物質）No. 9/2019（2019.04.26）

【FDA】ダイエタリーサプリメントの違法成分から消費者を保護するための新たな段階に関する Frank Yiannas 副長官の FDA 声明

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2019/foodinfo201909c.pdf>

## 6. FDA は大豆レグヘモグロビンを認証免除色素添加物リストに加える最終規則の発効日を発表

FDA Announces Effective Date for Final Rule Adding Soy Leghemoglobin to List of Color Additives Exempt from Certification

December 17, 2019

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-announces-effective-date-final-rule-adding-soy-leghemoglobin-list-color-additives-exempt>

発効日の一時延期を解除。Center for Food Safety (CFS)から提出された反対意見が、真の実在問題ではなく、ヒヤリングやその他の規制改定につながる行動を正当化するものではないと結論したため。

### FDA の簡単な説明：大豆レグヘモグロビンの色素添加物としての認可は今や有効

FDA In Brief: FDA approval of soy leghemoglobin as a color additive is now effective

December 17, 2019

<https://www.fda.gov/news-events/fda-brief/fda-brief-fda-approval-soy-leghemoglobin-color-additive-now-effective>

CFS の反対理由と FDA の判断（概要のみ）

- 色素を挽肉代用品に使った場合の安全性試験をすべき →食品が違くと色素が別物になるという根拠を CFS が出していない



- 表示に酵母のタンパク質の残留を表記すべき →その酵母タンパク質がアレルゲンであるという根拠が提示されていない
- 色素タンパク質が生状態で安全性試験をすべき →生である
- 企業の行った試験のデータを使うべきではない →その意見には合意しない
- 遺伝子組換え酵母を使っているため別途安全性評価をすべき →何が問題か根拠が提示されていない
- 環境影響評価をしていない →この色素の認可で環境影響がある可能性についての具体的データを提出していない

## 7. 公示

- **PremierZEN Gold 7000 は表示されない医薬品成分を含む**

Public Notification: PremierZEN Gold 7000 contains hidden drug ingredients

12-13-2019

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-premierzen-gold-7000-contains-hidden-drug-ingredients>

FDA は精力剤の健康製品として販売されている PremierZEN Gold 7000 の購入、使用をしないよう消費者に助言する。製品にシルデナフィル、タダラフィルを含む。

- **SUPER Platinum 30000 PANTHER は表示されない医薬品成分を含む**

Public Notification: SUPER Platinum 30000 PANTHER contains hidden drug ingredient

12-17-2019

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-super-platinum-30000-panther-contains-hidden-drug-ingredient>

FDA は精力剤として販売されている SUPER Platinum 30000 PANTHER の購入、使用をしないよう消費者に助言する。製品にタダラフィルを含む。

## 8. リコール情報

- **J. M. Smucker Company は健康懸念のため Special Kitty® Wet, Canned Cat Food を自主的にリコールすると発表**

The J. M. Smucker Company Issues Voluntary Recall of Specific Lots of Special Kitty® Wet, Canned Cat Food Due to Health Concerns

12/05/2019

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/j-m-smucker-comp-any-issues-voluntary-recall-specific-lots-special-kitty-r-wet-canned-cat-food-due>

J. M. Smucker Company は、本日、企業の品質と安全基準を満たさない成分の可能性があり、健康懸念のため Kitty® Wet, Canned Cat Food を自主的にリコールすると発表。

- **Motto International Corp.** は表示されない成分タダラフィルのため、**Bull Platinum 30000**、**Stallion Platinum 30000**、**Rhino 7 Platinum 30000**、及び **Panther Platinum 30000** を自主的リコール

Motto International Corp. Issues Voluntary Recall of Bull Platinum 30000, Stallion Platinum 30000, Rhino 7 Platinum 30000, and Panther Platinum 30000, Due to Presence of Undeclared Tadalafil

December 17, 2019

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/motto-international-corp-issues-voluntary-recall-bull-platinum-30000-stallion-platinum-30000-rhino-7>

Motto International Corp. は精力剤の Bull Platinum 30000、Stallion Platinum 30000、Rhino 7 Platinum 30000、及び Panther Platinum 30000 に表示されないタダラフィルが含まれるため、自主的リコールを行う。製品写真あり。

## 9. 警告文書

- **Hill's Pet Nutrition Inc.**

November 20, 2019

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/hills-pet-nutrition-inc-576564-11202019>

缶詰ドッグフードに有害な量のビタミン D が含まれていてリコールされた件を受けた査察。いくつかの違反が指摘されている。ビタミンプレミックスの品質確認がされていない。

- **Prolifix Nutrition, LLC**

November 20, 2019

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/prolifix-nutrition-llc-578969-11202019>

ダイエットサプリメントの CGMP 規則違反、製造、包装または衛生管理の問題。

- **PT. SIG ASIA**

October 28, 2019

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/pt-sig-asia-592584-10282019>

インドネシアの会社に向けた、米国に輸入される魚の養殖場についての警告。シーフード HACCP 違反。マグロのヒスタミン管理について多数指摘。

- 
- 米国連邦取引委員会 (FTC : Federal Trade Commission)

<http://www.ftc.gov/index.shtml>

## 1. FTC は UrthBox スナックボックスの「無料」お試しに誤解させられた消費者に返金チェックを送っている

FTC Sending Refund Checks to Consumers Allegedly Misled by “Free” Trial Offers for UrthBox Snack Boxes

December 9, 2019

<https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2019/12/ftc-sending-refund-checks-consumers-allegedly-misled-free-trial>

FTC は合計 84,000 ドルの 2,221 件の返金小切手を消費者に郵送している。UrthBox スナックボックスの「無料」お試しを申し込んだはずが、月末までに脱退手続きをしないと 6 ヶ月間の自動申し込みになるものだった。

2016 年 10 月から 2017 年の 11 月まで、UrthBox は郵送料と手数料のみでの「無料」お試しを提供した。しかしこの間に重要な条件、一定期間以内にキャンセル手続きをとらないと 6 ヶ月間自動課金すること、を適切に開示していなかった。さらに UrthBox は Better Business Bureau やその他第三者のウェブサイトに消費者からのポジティブな意見を誤解を招くような形で提示させた、実際にはポジティブな意見を書くことと引き換えにスナックボックスを提供していた。2019 年 4 月に同様の行為を行わないことと返金についての行政命令が出された。

## 2. FTC とメイン州はダイエタリーサプリメント販売業者を命令無視で訴える

FTC, State of Maine File Contempt Action against Dietary Supplement Marketers

December 18, 2019

<https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2019/12/ftc-state-maine-file-contempt-action-against-dietary-supplement>

ダイエタリーサプリメントを販売している 2 つの企業が、2018 年の和解命令に違反して根拠のない宣伝で販売を続けていることに対してメイン州司法長官事務所と共同で申し立てを行った。企業は Health Research Laboratories, LLC (HRL) と Whole Body Supplements, LLC、そしてオーナーは Kramer Duhon。

---

### ● カナダ食品検査庁 (CFIA : Canadian Food Inspection Agency)

<http://www.inspection.gc.ca/english/toce.shtml>

#### 1. 情報共有を増やし、より安全に

More sharing, more safety

2019-11-27

<https://www.inspection.gc.ca/about-the-cfia/chronicle-360/food-safety/more-sharing-mor>

[e-safety/eng/1574450091524/1574450091977](https://www150.ca/e-safety/eng/1574450091524/1574450091977)

食品由来の疾患は毎年カナダ市民の 8 人に 1 人が感染する。インシデントが発生すると、カナダ食品検査庁 (CFIA) の職員は連邦、州及び準州のパートナーと共に昼夜なしに働く。CFIA の使命：カナダ市民への影響を最小限にし、アウトブレイクの原因を調査すること。

#### 1 オンスの予防は 1 ポンドの治療に値する (予防は治療に勝る)

ことわざに言うように「1 オンスの予防は 1 ポンドの治療に値する (予防は治療に勝る)」。

それこそ、“カナダ食品安全情報ネットワーク (CFAIN)” が、共有されたデータの力を活用し、CFIA とその連邦、州及び準州の食品安全と公衆衛生のパートナーが食品安全の事故及び緊急事態に対し、より適切な予測、検出及び対応できるように新たなデジタルツールを導入する理由である。

CFSIN の事務局長 Christiane Villemure は「パートナーがカナダ全体のデータを結び付け、共有することができる取り組みの仕事にわくわくしている。これは、我々や我々のパートナーが、問題が起きた場合に食品の安全問題により早く警告を出せるようになり、アウトブレイクに対応するより十分に統一された方法を手に入れることができる」と述べる。

#### 連携を円滑にする最新ツール

CFSIN は食品安全機関とカナダ全体の食品検査研究所の強化されたネットワークを促進する。州や準州の垣根を簡単に越え協力するために一連のデジタルツールを入手する。これらの強力なツールの 1 つは環境スキャンソフトで、最大 9 言語でニュース記事、学術資料、ソーシャルメディアチャンネルなど、30,000 件以上の情報源を分析でき、世界中の食品の安全性リスクの傾向を食品安全の専門家に分類して通知することができる。このツールは、データの優先順位をつけ、専門家に最もリスクの高い分野を警告するために、人工知能の一種である機械学習能力を使用する。

環境スキャンは CFIA とカナダ国立研究機関及び州機関の協力により開発された。

#### 過去から未来を予測できる

環境スキャンの目的は現在のあるいは新興リスクを同定することであるが、もう一つのツールは未来を予測するために過去を調べる。予測分析は将来の変動あるいは結末の可能性を予想するために膨大な歴史的なデータを使用する。例えば、保険会社は特定の運転者が事故にあう確率がどのくらいかに基づき割増金を加算した。

CFSIN においては、予測分析は CFIA の検査官及び他のカナダ中のパートナーにより食品のサンプリングと検査により集められたデータを使用する。食品の特定の組み合わせ、環境的要因、集団及びハザードに関連する歴史的なデータや傾向を考慮しながら、このツールは傾向やパターンを確認するために機械学習知能を使用し、食品安全問題が起きそうなときに、職員に警告するするだろう。

「このデータと分析ツールを最大限に活用することは、CFIA とそのパートナーが食品調査に対し、より予防的な手法で取り組むことができることを意味する。CFSIN の目標は、カナダの食品由来の疾患に対し、よりよく理解し、予測し、対応するために共有された専門知識や取り組みを最大限にすることで、食品安全と公衆衛生の機関がカナダ市民をより

よく保護するために手助けすることである」と Villemure は述べた。

\* Canadian Food Safety Information Network (CFSIN)

<https://www.inspection.gc.ca/food/cfsin/eng/1525378586176/1525378959647>

## 2. 開始：食品事業者用ツールキット

Getting started: Toolkit for food businesses

2019-12-09

<https://www.inspection.gc.ca/food/toolkit-for-food-businesses/eng/1427299500843/1427299800380>

食品事業者が「カナダ人のための安全な食品規則（SFRC）」の新たな要件を満たしているか確認するツール。ライセンス、予防的管理、トレーサビリティ、輸入業者向け、輸出業者向け、その他、という項目別に閲覧できるようになっている。

- 
- オーストラリア・ニュージーランド食品基準局  
(FSANZ : Food Standards Australia New Zealand)  
<http://www.foodstandards.gov.au/>

## 1. 最終報告書－新しい交配技術を用いて作った食品のレビュー

Final Report - Review of food derived using new breeding techniques

<https://www.foodstandards.gov.au/media/Pages/Final-Report---Review-of-food-derived-using-new-breeding-techniques.aspx>

FSANZ は本日 NBTs を用いた食品のレビューについて最終報告を発表した。FSANZ の Mark Booth 長官は、この最終報告は、食品基準の遺伝子組換え食品の定義が現在の遺伝子工学の進歩に照らして目的にかなったものであるかについての関係者やコミュニティとの詳細な意見交換を含む、FSANZ による相当な量の仕事の成果であると述べた。

このレビューは、新しい交配技術（NBT）由来食品の安全性と規制についてコミュニティの中に多様な意見があるものの、多くは現在の定義はもはや目的にかなっておらず明確性を欠くことについて合意した。これらの知見に基づき、FSANZ は新年に食品基準の定義を改訂する提案をする。その提案は現在の規制を強化し、市販前の安全性評価が必要なのはどの食品かを明確にするだろう。食品基準改定案については、FSANZ は意見募集を行う。この分野は関係者の意見や懸念が多様であり、従ってコミュニケーションと参加が意見募集プロセスにおいて大きな部分を占めるだろう。

\*最終報告書：Food derived using new breeding techniques – review

December 2019

<https://www.foodstandards.gov.au/consumer/gmfood/Pages/Review-of-new-breeding-technologies.aspx>

最終報告書の助言は次の通り。

1. FSANZ は食品基準の定義をより明確で既存のおよび新興遺伝子技術に適応した現代的なものに改訂する提案を準備する
2. 提案の一環として FSANZ は工程あるいは工程によらない定義について検討し、NBT がそのリスクに釣り合った規制を受けるよう確保する
3. 提案の全てのプロセスでオープンコミュニケーションと関係者の活発な参加を確保し GM や NBT 食品についての認識を高める

## 2. 食品基準通知

Notification Circular 105–19

12 December 2019

<https://www.foodstandards.gov.au/code/changes/circulars/Pages/NotificationCircular105%E2%80%9319.aspx>

改正

- ・ 純及び高濃濃縮カフェイン製品の小売り販売禁止

---

## ● オーストラリア TGA (TGA : Therapeutic Goods Administration)

<http://www.tga.health.gov.au/index.htm>

### 1. 安全性警告

- Kulchaya Sheaya Lender capsules

5 December 2019

<https://www.tga.gov.au/alert/kulchaya-sheaya-lender-capsules>

製品は表示されない成分フルオキシセチンを含む。製品写真あり。

- Black Storm tablets

10 December 2019

<https://www.tga.gov.au/alert/black-storm-tablets-0>

製品は表示されない成分シルデナフィルを含む。製品写真あり。

---



● ニュージーランド一次産業省 (MPI : Ministry of Primary Industry)

<http://www.mpi.govt.nz/>

1. ニュージーランド食品安全は新戦略と行動計画を発表する

New Zealand Food Safety announces new strategy and action plan

Last reviewed: 10 Dec 2019

<https://www.mpi.govt.nz/news-and-resources/media-releases/new-zealand-food-safety-announces-new-strategy-and-action-plan/>

ニュージーランドの食品安全は本日、信頼され安全な食品の提供国としての国の名声を維持し向上させるための戦略と行動計画に着手する。

ニュージーランド食品安全副長官 Bryan Wilson は、オークランドでの食品安全サミット開会で、ニュージーランド食品安全システムに直面する様々な課題や機会に沿った戦略を議論する。Wilson は次のように述べる。

「食品は我々の経済の支えであり、しかし、それ以上のものである。食物を育て、生産し、調理しそして友達や家族と分け合う。我々が誰であるか国として定義する助けになる。戦略は食品の中心地を認識し、2024 年に向けた行動計画を開始する。以下 5 点を優先する：

- ・ニュージーランドの世界クラスの食品安全システムの安定維持を保証すること
- ・情報を与えられた上で選択できるよう積極的に消費者を支援する
- ・国際フォーラムにおける新たな考え方に活発に貢献する
- ・マオリ族との真のパートナーシップをもって取り組む
- ・新たな課題に直面した時、革新的に先進的な考えで取り組む。

我々の戦略は力強く、先を見越したものであることが重要である。消費者の期待、複雑な食品供給チェーン及び絶えず進化する科学の変化に対応していることを確実にするためのより多くの取り組みの始まりである。食品由来の疾病を減らすことは、常にニュージーランド食品安全の核となる任務であるだろう。ニュージーランド食品が誰にでもどこでも信頼され、認知されるという構想を達成する中で、我々が確実に役割を果たすことができるように、戦略により、より広い状況の中で仕事を考えることができる。我々はこの戦略を消費者、顧客、規制当局者及び業界代表者だけでなく条約パートナー国とも広くテストした。この戦略の構想と方向性は大部分が支持されたことを嬉しく思った。戦略の成功にはパートナーと共通の目標を共有する必要があるということである。戦略は、現在の問題に素早く反応し、新興の脅威を予測し、準備することができるように、重要なリソースに焦点を当てるのに役立つだろう。戦略や行動計画はゴールではなく、始まりであることに注意しなくてはならない。我々は毎年積極的に我々の進捗を監視し、レビューするつもりである。良い知らせは、ニュージーランド食品はすでに国内及び貿易相手国において素晴らしい名声を享受していることである。我々にはこの強固な基盤の上に築く明るい未来がある。」

\*戦略 (Strategy 2019-2024)

<https://www.mpi.govt.nz/dmsdocument/38951-new-zealand-food-safety-strategy>

\*行動計画

<https://www.mpi.govt.nz/dmsdocument/38948-2019-food-safety-action-plan>

## 2. リコール情報

### ● Pams ブランドの乳製品デザート

Pams brand Dairy Dessert

13 December 2019

<https://www.mpi.govt.nz/food-safety/food-recalls/recalled-food-products/pams-brand-dairy-dessert/>

Foodstuffs Own Brands はプラスチックの容器の破損で、プラスチックの破片が製品に入る恐れがあるとしてすべての Pams ブランドの乳製品デザートをリコール措置。製品写真あり。

### ● Countdown ブランドのアジ製品

Countdown brand Trevally Fillets

12 December 2019

<https://www.mpi.govt.nz/food-safety/food-recalls/recalled-food-products/countdown-brand-trevally-fillets-2/>

Woolworths NZ Ltd はヒスタミンの濃度上昇のため Countdown ブランドのアジ製品を一部リコール措置。製品写真あり。

---

### ● 香港政府ニュース

<http://www.news.gov.hk/en/index.shtml>

#### 1. 包装済み衣笠茸のサンプルに基準値超過の保存料が検出され、食品表示規則に違反

Prepackaged bamboo fungi sample detected with excessive preservative and in breach of food labelling regulation

Friday, December 6, 2019

[https://www.cfs.gov.hk/english/press/20191206\\_7728.html](https://www.cfs.gov.hk/english/press/20191206_7728.html)

食品安全センター及び食物環境衛生署は包装済み衣笠茸のサンプルに表示に記載のない保存料の二酸化硫黄が検出され 6,730 ppm（規制値：500 ppm）であった。

#### 2. 缶詰レタスのサンプルが食品表示規則に違反

Thursday, December 5, 2019

[https://www.cfs.gov.hk/english/press/20191205\\_7726.html](https://www.cfs.gov.hk/english/press/20191205_7726.html)

食品安全センター及び食物環境衛生署は缶詰レタスサンプルに表示に記載のない添加物の二酸化硫黄が検出された。

### 3. 地元の豚の組織から基準値超過の動物用残留医薬品

Tissue samples from local pigs detected with veterinary drug residues exceeding the legal limit

5 Dec 2019

[https://www.cfs.gov.hk/english/unsat\\_samples/20191205\\_7725.html](https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20191205_7725.html)

食品安全センターが検査したところ、地元豚の組織 2 サンプルから基準値超過の動物用残留医薬品、スルホンアミドが 2,700 µg/kg と 260 µg/kg 検出（基準値：100 µg/kg）。二つの農場の監視強化とフォローアップ調査中。

### 4. 日本産輸入冷蔵マグロのサンプルに基準値超過のメチル水銀が検出された

Chilled tuna sample imported from Japan detected with methylmercury exceeding legal limit

Wednesday, December 11, 2019

[https://www.cfs.gov.hk/english/press/20191211\\_7732.html](https://www.cfs.gov.hk/english/press/20191211_7732.html)

食物環境衛生署及び食品安全センターは、定期的な食品サーベイランスプログラムにおいて、日本産の輸入冷蔵マグロのサンプルにそれぞれ基準値 0.5 ppm を超える 1.1 ppm のメチル水銀を検出したと発表した。

### 5. 違反情報

#### ● 包装済みナツメヤシの実が食品表示規則に違反

Prepackaged date sample in breach of food labelling regulations

Friday, December 6, 2019

[https://www.cfs.gov.hk/english/unsat\\_samples/20191206\\_7730.html](https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20191206_7730.html)

食品安全センターは、包装済みナツメヤシの実（デーツ）に表示に記載のない保存料の二酸化硫黄が検出され、濃度が規制値内 290 ppm（規制値：1,000 ppm）であったと発表した。これらの濃度によるヒトへの有害影響の可能性はありそうにない。

---

#### ● 韓国食品医薬品安全処（MFDS : Ministry of Food and Drug Safety）

<http://www.mfds.go.kr/index.do>

### 1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

輸入検査課

- 2019.11.29～2019.12.5

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_100/view.do?seq=43100](https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43100)

- 2019.11.22～2019.11.28

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_100/view.do?seq=43099](https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43099)

## 2. 食品医薬品安全処、食品由来の抗生物質耐性の共同対応のための国際会議の開催

農畜水産物政策課/微生物課 2019-12-09

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43852](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43852)

食品医薬品安全処は、12月9日から13日まで、国連食糧農業機関（FAO）、世界保健機関（WHO）とともに「第7回コーデックス抗菌剤耐性に関する特別部会」を開催する。食薬処は、今次会合の目的を「ワンヘルスのための一段階跳躍（One Step Forward）」に設定し、▲抗菌剤耐性の最小化及び抑制のための実施規範の改訂（農場から食卓までの利害関係者の遵守事項）、▲抗菌剤耐性の統合的なモニタリングおよびサーベイランスに関するガイドライン原案（政府の抗生物質の使用と耐性統合監視方法）などの課題を議論する予定である。

\* ワンヘルス（One-Health）：抗生物質耐性管理、人獣共通感染症の管理、食品衛生等におけるヒト及びその他（動物、植物、環境など）の分野について統合的なプログラム、法律、研究などを設計し、実装するアプローチ

## 3. 食品医薬品安全処、食品の安全情報交換のための国際的なネットワークを強化

危害情報課 2019-12-09

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43851](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43851)

食品医薬品安全処は、12月9日から12日までアラブ首長国連邦（アブダビ国立展示場）で開催される、第2次グローバルINFOSAN及び第5回アジアINFOSAN会議に出席する。

\* Global INFOSAN：2004年、WHOとFAOが、食品の安全性と関連して、緊急事態発生時の迅速な情報交流のため、食品の拡散防止のために設立した協力会議（現在188加盟国活動）

\* Asia INFOSAN：2011年、WHO西太平洋地域事務局と韓国食薬処が主軸になって中国、日本など14のアジア諸国の情報交流と協力の強化のために構築した協力

今回の会議は、INFOSAN加盟国と国際機関の担当者など250人余りが参加する予定であり、主な案件は、▲食品安全緊急時の情報共有と協力方案、▲国別食品安全リスク評価の経験を共有、▲食品のリスク評価時のビッグデータ、人工知能の利用など。

参考として、食薬処は会議で、すでに国内で実施している「危害食品販売遮断システム」というテーマ発表を通じて国内先進の食品安全管理システムを知らせる予定である。

\* 危害食品販売遮断システム：食品不適合の発生時に、流通過程で自動的に該当製品の販売を遮断するシステム

#### 4. 食品、医薬品ウェブサイトの安全情報を1ヶ所に

情報化統計担当官/顧客支援担当官 2019-12-02

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43840](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43840)

食品医薬品安全処は、食品安全国、医薬品安全国などに分散されている食品・医薬品安全情報を食薬処代表ウェブサイト（ホームページ）で検索することができるように改善した「食・医薬統合検索」サービスを12月2日に提供する。

\* 食薬処代表ウェブサイト（ホームページ）：[www.mfds.go.kr](http://www.mfds.go.kr)

今回の統合検索サービスは、食薬処代表のホームページ検索ウィンドウにキーワードを入力すると、代表のホームページを含め、食品・医薬品安全情報を含んでいる食薬処運営7つのサイトを一度に検索することができるように改善し、使用者の利便性を高めた。

\* 食薬処代表ホームページ、食品安全国、医薬品安全国、医療機器電子請願窓口、国民請願、評価院ホームページ、バイオITプラットフォーム

統合検索結果の中から必要な情報をクリックすると、実際の情報を持っているサイトに繋がれて詳細内容を確認できる。特に今回のサービスで、回収・販売中止製品を検索するために、食品安全国または医薬品安全国などに別途で接続しなければならない不便が改善されると期待される。

#### 5. 子供が好む食品の品質認証、安全は強化して栄養は改善

食生活栄養安全政策課 2019-11-28

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43832](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43832)

食品医薬品安全処は、カフェイン及び食品添加物の使用に対する基準を強化して、栄養成分を満たす基準を合理的に改善することを主な内容とする「子供嗜好食品品質認証基準」を11月28日に施行する。

今回の告示の主要内容は、▲高カフェイン含有食品認証対象除外、▲韓国人の栄養摂取目安量に合わせてタンパク質とビタミンの基準設定、▲栄養成分を満たす基準の合理化、▲輸入食品の安全確認の根拠及び食品添加物の使用基準の整備など。

高カフェイン含有食品は、現在の学校と優秀販売店での販売を禁止しており、過剰摂取時に不眠症や嘔吐などの副作用を誘発する可能性があるため、品質認証を受けることができないように基準を強化した。韓国国民の栄養摂取量のうち推奨摂取量を超過して摂取しているタンパク質は基準を下げ、摂取量が相対的に不足しているビタミンDは基準を新設した。

\* タンパク質の基準調整：(おやつ用)1回の摂取参考量あたり5.5g以上→1回の摂取参考量あたり3g以上

\* タンパク質の基準調整：(食事代用)1回の摂取参考量あたり11g以上→1回の摂取参考量あたり5.5g以上

\*\* ビタミンDの基準新設：(おやつ用)1回の摂取参考量あたり1.5µg以上

\*\* ビタミン D の基準新設：(食事代用)1 回の摂取参考量あたり 3.0 µg 以上

また、栄養成分を満たす基準をタンパク質、食物繊維、ビタミン、ミネラルのうち 2 つ以上の適用で、タンパク質、食物繊維、ビタミン A、ビタミン B1、ビタミン B2、ビタミン C、ビタミン D、カルシウム、鉄分のうち 2 つ以上の適用に改善して、品質認証食品の栄養成分の変化を確保し、成長期に必要な栄養素を含んでいる野菜類、果物類、ナッツ、全粒穀物、卵、牛乳を 95%以上含有した食品は、栄養成分を満たす基準を適用しないように改善した。併せて、輸入食品安全基準に優秀輸入業者または海外優秀製造業者から輸入した食品を追加して、品質認証食品に使うことができない食品添加物は食用タール色素 16 種、保存料 13 種に整備した。

## 6. 子供が好む食品を調理・販売する飲食店の栄養成分表示の点検結果を発表

食生活栄養安全政策課 2019-11-28

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43831](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43831)

食品医薬品安全処は、10 月 31 日から 11 月 13 日まで 17 の地方自治体とともにピザ、ハンバーガーなど、子供が好む食品を調理・販売する飲食店(フランチャイズ)を対象に、栄養成分とアレルギー誘発食品表示の可否などを集中的に点検した。

\* フランチャイズ：ピザ、ハンバーガー、アイスクリーム類、製菓・製パン類を調理・販売する店の加盟事業で、直営店と加盟店を含む店舗数が 100 以上の店

点検対象はフランチャイズ 34 社の直営店と加盟店 10,630 ヶ所で、大半の営業店で栄養成分及びアレルギー誘発成分表示が適切にされていたが、食品衛生法に違反した 2 ヶ所(健康診断未実施、営業施設の変更未申告)が摘発された。

食薬処は、今後も、消費者の知る権利を保証して健康的な食生活環境づくりのために栄養成分やアレルギー誘発成分表示の管理を継続的に推進していく。また、子供が好む食品の栄養成分やアレルギー誘発成分表示義務対象を段階的に拡大\*する方案を検討中であり、12 月に関連協会と懇談会を持つ計画である。

\* (現行) 子供が好む食品(ピザ、ハンバーガー、アイスクリーム類、製菓・製パン類) 調理・販売加盟店 100 以上→(拡大) 加盟店全体

併せて、消費者にも子供が好む食品調理・販売店の売場を訪問する、または、配達アプリ、電話などで注文・配達時に、該当調理食品の栄養成分とアレルギー誘発成分を入念に見るようお願いする。

## 7. 食品調理器具の正しい使用方法など情報提供

添加物基準課 19-11-27

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43825](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43825)

食品医薬品安全処は、食品調理器具と容器をたくさん使うキムチを漬ける季節を迎え、国民が健康的で安全な食品を摂取することができるよう、調理器具の正しい使用情報を提供する。



#### ■ 食品用器具などの表示事項の確認

- 食品用器具を購入するときは、製品の表示事項を確認した後、用途に適切な製品を購入して使用する。
  - 食品用器具には、「食品用」の単語や「食品用器具図案」、PE(ポリエチレン)、PP(ポリプロピレン)などの材質名と消費者の安全のための注意事項などが表示されている。
- キムチを漬ける季節、たらい、ざる、ボウル、ビニール袋、ゴム手袋などを使うが、必ず食品用に作られた製品を選択して使用する。
  - キムチ、カクテキを和えるときにゴム製の赤いたらいを使用している場合は、食品用に製造されたプラスチック製またはステンレス製のたらいを使うことが望ましい。
  - 参考に、ゴム製の赤いたらいは、通常、リサイクル原料から作られていて、カドミウムなどの重金属が溶け出す恐れがあり食品用ではない場合がほとんど。

#### ■ 調理器具など安全な使用要領

- プラスチック製は、高温で外形の変形などが発生する場合がありますので、加熱された食品を入れる用途で使わない。
  - 特にプラスチックのおたまやザルを鍋などに入れて食品と一緒に加熱する場合は、プラスチック製ではなくステンレス製のものを使うことを勧める。
- 農産物の包装用途に製造されたタマネギ網は絶対に使わない。
  - 高温でタマネギ網の色素などが溶け出す可能性があるため、食品用に製造されたステンレス製のざるを使う。
- 併せて、ファストフード店などでは、トレイに敷いておくチラシとフライドポテトやケチャップなどが接触しないように注意。
  - 印刷用インクが食品に付着して出てくる可能性があるから。

## 8. 「食医薬ヤングリーダー 優れた活動で私達の安全を守るようになりました」

疎通協力課 2019-11-27

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43823](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43823)

食品医薬品安全処は、今年度の食品医薬品優秀活動チームを選抜する「第9期食医薬ヤングリーダー\* 優秀活動事例発表大会」を、来る27日食薬処で開催する。

\* 食・医薬ヤングリーダー: 青少年が正しい食品・医薬品安全情報を食薬処公式サイト(食薬処公式ホームページ、ブログ、フェイスブック、インスタグラム、ユーチューブなど)を基礎として、自ら探求し、周辺に拡散する食品・医薬品安全文化の拡散プログラム

今回の発表会では「カフェインの摂取を正しく知る」、「医薬品を正しく使う」、「糖を正しく知って健康的に食べる」、「栄養表示を確認する」というテーマで、地域別事前審査を経て選ばれた11チーム(中等5、高等6)が参加する。参考として、今年は3~4人がチームになって、合計50チーム(中等8チーム、高等42チーム)が活動しており、2011年から始めて、今まで430チーム計1,600人以上の学生が参加した。受賞者は、過去6ヶ月間の活

動内容と成果、テーマの適合性及び大衆性などを考慮して、中等部と高等部に分けて最優秀賞(1チーム)、優秀賞(1~2チーム)、奨励賞(2~3チーム)を選定して食薬処長賞と賞金を授与する計画。

\* 中等部：最優秀 1(30万ウォン)、優秀 1(20万ウォン)、奨励 2(15万ウォン)/高等部：最優秀 1(30万ウォン)、優秀 2(20万ウォン)、奨励 3(15万ウォン)

## 9. 医薬品と誤認する懸念がある虚偽・誇大広告をした 6 ヶ所を摘発

食品安全管理課/食品表示認証課 2019-11-26

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43820](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43820)

食品医薬品安全処は、消費者が医薬品と誤認する懸念があるように虚偽・誇大広告した「リングティ」製品と「エネルギー99.9」製品を摘発して、該当製品を製造・流通・販売した業者 6 ヶ所を「食品衛生法」及び「食品などの表示・広告に関する法律」違反で行政処分する。摘発の内容は次の通り。

流通専門販売である点滴ウォーターは、消費者が医薬品と認識する懸念がある「点滴ウォーター」というフレーズを「リングティ Lingtea」製品の包装とチラシに表示して流通し摘発された。

\* 「リングティ」は、医薬品として使われる点滴のような効能・効果がある製品ではなく、スポーツ飲料と同じような一般食品

㈱細身ケミカルは、食品製造・加工業登録もせず、食品添加物として登録されていないケイ素成分を添加して「エネルギー99.9」製品を作って「食薬処登録」、「FDA 承認」など食薬処に登録された製品であるように虚偽表示して摘発された。

また、㈱ウィズライフは、㈱細身ケミカルが製造した「エネルギー99.9」製品を「骨粗鬆症・血管の浄化・寿命延長」などの疾病の予防・治療に効能があるとチラシを通じて虚偽・誇大広告し販売して摘発された。

## 10. 食品医薬品安全処、食品産業の海外市場への進出を支援

危害情報課 2019-11-25

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43817](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43817)

食品医薬品安全処は、食品分野の輸出業者の関係者などを対象に、来る 25 日ソウル食品医薬品安全庁で「2019 年 K-フード安全情報フォーラム(以下 K-フードフォーラム)」を開催する。今回のフォーラムは、フォーラムのメンバー及び食品安全管理関連機関など 100 人余りが参加する中で、食品分野の規制動向など輸出に必要な海外の情報を提供するために用意した。

主要内容は、▲米国食品現代化法による国内の環境中病原性微生物モニタリングシステム構築事例、▲中国食品関連法令及び課題、▲最近 3 年間韓国産輸出食品不適合の動向など。

K-フードフォーラムは、2017 年に国内・外の食品安全情報の共有を通じた食品安全確保のために産業、学界、関連機関が一緒に作った官民協力体である。

\* 共同代表(5人)、執行委員会、事務局、広報・交流国、6地域(中国、日本、北米、南米、ヨーロッパ、中東、東南アジア、オーストラリア)で構成・運営  
主な活動としては、国内の中小企業の海外輸出支援のために食薬処と食品メーカーなどが海外の食品規制の現状などの情報を収集・分析・提供している。

## 11. 回収措置

### ● 動物用医薬品の基準が超過して検出された中国産の活ドジョウの回収措置

輸入流通安全課 2019-11-29

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43839](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43839)

食品医薬品安全処は、食品の輸入販売チェーンが輸入・販売した中国産「活ドジョウ」から動物用医薬品エンロフロキサシンが基準(0.1 mg/kg)を超過(0.2 mg/kg)して検出され、販売中止及び回収措置。回収対象は、輸入日が2019年11月11日の製品。

### ● ベンゾピレンの基準が超過した輸入パーム油類(パームオレイン)の回収措置

輸入流通安全課 2019-11-29

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43838](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43838)

マレーシア産「Trade key ピュアパームオレインベジタブルオイル」から、ベンゾピレンが基準(2.0 µg/kg 以下)を超過(10.3 µg/kg)して検出され、該当製品を販売中止及び回収措置。回収対象は流通期限が2021年5月10日である製品。

### ● 賞味期限を改ざんした健康機能食品の回収措置

健康機能食品政策課 2019-11-26

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=43821](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=43821)

健康機能食品流通専門販売チェーンが「キロダウン発泡ダイエット」(タイプ: ビタミンC、ガルシニア)製品の賞味期限を改ざん(2019年7月19日→2021年5月19日)して販売した事実を摘発して、該当製品を販売中止及び回収措置する。(製品の写真あり)

---

### ● インド食品安全基準局 (FSSAI : Food Safety & Standards Authority of India)

<http://www.fssai.gov.in>

#### 1. 消費者は今や消費者団体を介して食品の検査ができる

Consumers can now get food tested through consumer organizations

13th December 2019:

[https://fssai.gov.in/upload/press\\_release/2019/12/5df499f9a0c50Press\\_Release\\_NetCOFaN\\_14\\_12\\_2019.pdf](https://fssai.gov.in/upload/press_release/2019/12/5df499f9a0c50Press_Release_NetCOFaN_14_12_2019.pdf)

ー食品と栄養のための消費者団体ネットワーク(NetCOFaN)を構築ー

消費者の信頼を得るために、インドの食品規制機関は消費者団体を介して食品の検査をすることに決めた。FSSAI は自主的消費者団体 (voluntary consumer organizations: VCOs) に権限を与える。VCOs は全国規模のネットワーク NetCOFaN をつくる。

## 2. メディアコーナー

**FSSAI は 8 月までに魚のホルムアルデヒドの許容量を設定する**

Food Safety and Standards Authority of India to set permissible limits for formaldehyde in fish by August

Dec 10, 2019

[https://fssai.gov.in/upload/media/FSSAI\\_News\\_Fish\\_TOI\\_10\\_12\\_2019.pdf](https://fssai.gov.in/upload/media/FSSAI_News_Fish_TOI_10_12_2019.pdf)

昨年魚介類の天然ホルムアルデヒドの測定研究を行うことが決まり、今年 7 月から検体採集が行われている。72 種について各 30 検体を 2 シーズン調査する。

---

### ● その他

#### **ProMED-mail**

シガテラ魚中毒ーカナリア諸島

Ciguatera fish poisoning - Canary Islands

2019-12-18

<https://promedmail.org/promed-post/?id=6847607>

Date: Tue 17 Dec 2019 Source: Outbreak News Today [edited]

カナリア諸島政府の保健担当者が La Victoria de Acentejo で black medregal (アジ科ブリ属の魚) を食べて 6 人が食中毒になったことを発見し、アウトブレイクの可能性があるとして報告した。

#### **EurekAlert**

- 世界の食糧供給中の天然毒素が恵まれない地域の健康を脅かしている

Natural toxins in the global food supply threaten the health of underprivileged communities

9-DEC-2019

[https://www.eurekalert.org/pub\\_releases/2019-12/sfra-nti112019.php](https://www.eurekalert.org/pub_releases/2019-12/sfra-nti112019.php)

リスクアナリシス学会の年次会合における WHO の 2015 年疾病負担解析を更新するシンポジウムで発表。2015 年に食品由来のヒ素、メチル水銀、鉛、カドミウムが世界で 100 万人の病気と 56000 の死亡をもたらし、900 万 DALYs 以上の負担になっている。その他、地

域ごとやアフラトキシン等の評価が発表されている。

\*SRA2019 Risk Analysis in the Data Analytics Era

<http://scienceserv.com/sra/2019AM/program/singlesession.php?sessid=M3-I>

- **食糧安全保障と持続可能性にフォーカス**

Focus on food security and sustainability

11-DEC-2019

[https://www.eurekalert.org/pub\\_releases/2019-12/uob-fof121119.php](https://www.eurekalert.org/pub_releases/2019-12/uob-fof121119.php)

Science Advances に掲載されたボン大学 Joachim von Braun 教授と欧州科学アカデミー助言委員会(EASAC)の Robin Fears 博士、アカデミー間パートナーシップ(IAP)会長 Volker ter Meulen 教授による、この分野の研究への注力の呼びかけ。

- **フロリダ沿岸の妊娠女性の魚の摂取と水銀暴露**

Fish consumption and mercury exposure in pregnant women in coastal Florida

16-DEC-2019

[https://www.eurekalert.org/pub\\_releases/2019-12/fau-fca121319.php](https://www.eurekalert.org/pub_releases/2019-12/fau-fca121319.php)

ー研究は感受性の高い集団での魚の摂取、産地、リスク、知識、水銀濃度を評価ー

International Journal of Environmental Research and Public Health に発表されたフロリダ大西洋大学の研究者らによる調査。

229 人の参加者の平均毛髪水銀濃度は米国平均と同程度かそれ以下。水銀濃度は地元産の魚や総シーフード摂取、教育レベルの高さ、初めての妊娠、と関連した。最も水銀濃度が高いのは州に三回シーフードを食べると回答した人で、33 才以上、アジア系女性で濃度が高い。85.5%は水銀が胎児に有害であること、89%は一部の魚の水銀濃度が高いことを知っていた

- **ステビアが最も議論されている低/ゼロカロリー甘味料のまま**

Stevia remains the most discussed low/zero-calorie sweetener

18-DEC-2019

[https://www.eurekalert.org/pub\\_releases/2019-12/kc-n-srt121819.php](https://www.eurekalert.org/pub_releases/2019-12/kc-n-srt121819.php)

国際ステビア評議会が、英語とスペイン語を話す国でのステビアへの態度や認識を理解するための 2019 年オンライン対話&トレンド解析を発表した。結果は、オンラインでの会話は二倍になった。データは 2017-2018 年のもの。約 80%がポジティブ/ニュートラルな感情で、2013-2015 年の解析に比べると話題がレシピや味から減量や血糖管理に移っている。英語の多くは米国 (84.5%)。

- **木の実が食べられるピーナッツアレルギーの人の 40%は食べないことを選んでいる**

Forty percent of people with peanut allergies can eat tree nuts but choose not to

18-DEC-2019

[https://www.eurekalert.org/pub\\_releases/2019-12/acoa-fpo121819.php](https://www.eurekalert.org/pub_releases/2019-12/acoa-fpo121819.php)

*Annals of Allergy, Asthma and Immunology* に発表された研究。ピーナッツアレルギーのある人の約 90%はアーモンドには耐えられるが、そのうち 33%はアレルギー反応が怖くて厳密に避けている。最も多い理由は交差接触。また食品の予防的表示(PAL)（含まれるかもしれない、同じ工場で加工、といったもの）があるものを食べる人は 37%で、完全に避ける人は 63%だった。

以上

---

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室